

2012.9.6~13



目次

- 団長挨拶 P.2
- 開催目的 P.3
- プログラム概要 P.4
- 勉強会 P.7
- 文化紹介 P.19
- 日別活動報告（日記） P.20
- フリーエッセイ P.30
- メンバー紹介 P.53
- ランキング P.77
- 持ち物リスト p.82
- Q&A P.85
- 有志ページ P.88
- 編集後記～03 へ～ P.92

団長挨拶

「みんなで作り上げる Ex.。一緒に作り上げてくれる熱い仲間募集。」

2012 年 5 月。ASM での募集告知から私たちの冒険は始まりました。

アプリケーションシートの設問総数は他の Ex.参加者の 2 倍以上。その直後、参加費の問題が浮上。

それでも、熱い思いをぶつけてくれた同志 21 人の仲間でインドネシア・トラジャ Ex.02 の第一歩を踏み出し、本番まで、スカイプ会議や勉強会でよりよい Ex.にすべく、みんなで考え、アイディアを出し合い、スケジュールやコンテンツの内容をつくりあげました。

そうして迎えた 2012 年 9 月 6 日から 9 月 13 日の 8 日間。

別れが辛くて涙が出るほど仲良くなれたハサヌディン大学の大学生との 2 日間の交流。

伝統家屋のトンコナンが立ち並び、トラジャ語が飛び交い、夜になると蛍と星が魅了する神聖な雰囲気サダン村での村人との交流。

子供の笑顔と元気さに癒された小学校や孤児院での子供達との交流。

「死」や「文化」や「宗教」について考えさせられたお葬式参式やお墓観光。「肉食」の意味をまのあたりにした水牛・ブタのマーケット訪問やブタの解体の見物。

この Ex.に参加しなかったらできなかった思い出と人生経験が書ききれないくらいたくさんできました。

冒険にハプニングや進路変更はつきものです。課題もまだまだ残っています。

しかし、こんなに最高の 8 日間を過ごせ、トラジャ Ex.に新たな兆しが見えてきたのは、参加者と周りの皆様のおかげです。

カンブンエクスペディションズの皆様。たくさんのアドバイスやご提案をくださった憲子様。ハサヌディン大学の大学生やサダン村の方々を始めとして現地で出逢った全ての方々。一人ひとりがトラジャ Ex.をつくりあげる当事者としての意識を持って主体的に考え、行動し、現実を受け入れてくれたトラジャ Ex.02 メンバーの仲間たち。

本当にありがとうございました。

インドネシア・トラジャ Ex.02 の終了は私達の冒険の終了ではありません。今後、10 年経っても私達は当事者でいたいと思います。トラジャ Ex.の更なる発展を願って。

2012 年 9 月 30 日 トラジャ Ex.02 団長 山本 梨世

開催目的

文責：山本梨世

インドネシア・トラジャ Ex.02 開催の目的は、主に 3 つある。1 つめは「参加者一人ひとりの成長」、2 つめは「仲間づくり」、3 つめは「今後への基盤づくり」である。

「参加者一人ひとりの成長」について

インドネシア・トラジャ Ex. は今回で 2 回目の開催となる。プログラム内容・参加費・開催日程などがまだ決まっていない状態から参加者みんなで話し合い、作り上げ、そして、実際にインドネシア・スラウェシ島南スラウェシ州のマカッサル市とタナトラジャへ行く。プログラム中に行われる現地大学生との交流・「死ぬために生きる」といわれているトラジャ族の村でのホームステイ・孤児院や小学校訪問・ブタの解体などを通して、参加者それぞれがさまざまなことを感じ、気づき、考える機会になるだろう。また、参加者全員がなんらかのリーダーを務め、全員で力を合わせてつくりあげ、1 つのチームとして行動することで、自己管理能力や主体性を身に付けるきっかけにしてほしい。

「仲間づくり」について

日本は近年、無縁社会になりつつあると言われており、相談相手がいない人が先進国内でも一番多いと言われている。インドネシア・トラジャ Ex.02 の参加者には、八日間ずっと一緒に過ごし、色んな思いや価値観を共有する中で、プログラム終了後や大学卒業後も続いていけるような仲間としての信頼関係をつくってほしい。

また、インドネシアで出会う現地の方々とも、国境や言葉や育った背景を越えて、仲間になり、個人と個人のつながりを第一歩として、お互いの国を思いやり、世界平和に貢献していきたい。

「今後への基盤づくり」

そして、インドネシア・トラジャ Ex.02 は、来年の 3 回目・それ以降のインドネシア・トラジャ Ex. の基盤となるようなプログラムにしたい。今後、I.S.A. のもつ Ex. のひとつとしてその先に続いていくプログラムとなり、参加者の成長や世界平和への貢献の継続的な窓口のひとつとなるようにしていきたい。

この 3 つの目的を達成することで、自分で考え行動できる日本の若者が生まれ、世界にお互いを思い合える仲間ができ、そして、インドネシア・トラジャ Ex. が今後続いていくことで、その 2 つの継続的なきっかけの提供ができるようになる。こうして、インドネシア・トラジャ Ex.02 の開催を I.S.A. の理念のひとつである「世界平和達成への貢献」に繋げていきたいと思う。

概要

◇ 参加者名簿

	名前	学年	支部	大学	役職
1	柴口徹哉	4	神戸	関西学院大学	チケット
2	松尾咲穂	4	神戸	甲南大学	報告書
3	梶山有希子	3	神戸	甲南大学	勉強会
4	郡山めぐみ	3	神戸	関西学院大学	★FB
5	坂下佳穂	3	神戸	神戸松蔭女子学院大学	★勉強会
6	下郡瑛里	3	神戸	甲南大学	★文化紹介
7	鳥丸大貴	3	神戸	関西学院大学	副団長
8	山内菜摘	3	神戸	関西学院大学	★報告書
9	岩崎薫	2	神戸	甲南大学	勉強会
10	木村竜也	2	神戸	甲南大学	★チケット
11	松嶋秀太	2	神戸	甲南大学	★パスポート
12	森本悠生	2	神戸	甲南大学	副団長
13	中瀬有紀	1	神戸	神戸大学	財務
14	柳瀬梨央	1	神戸	神戸松蔭女子学院大学	文化紹介
15	吉澤賢	1	神戸	神戸大学	文化紹介
16	山本梨世	4	大阪	関西大学	団長・国渉
17	山本彩代	2	大阪	関西大学	★広報
18	池田早希	2	九州	北九州市立大学	★財務
19	石井亜理沙	2	九州	北九州市立大学	★ML
20	佐武里砂	3	京都	同志社女子大学	広報
21	岩渕将之	1	東京	立教大学	副団長

★ は役職のリーダー

計 21 名

◇ 協力団体

- カンプン・エクスペディションズ
- ハサヌディン大学日本語学科の皆さま



☆ プログラム日程

0 日目@マカッサル

(全員クアラルンプール経由だったためその時点で合流)

夜マカッサル着：空港まで、ガイドと運転手に迎えに来てもらう。

→夕食：インドネシア料理！ナシゴレン or ミーゴレン

→ホテルに移動：スケジュール最終確認

*ニューレジェンドホテル泊

1 日目@マカッサル

インドネシア・トラジャ EX スタート

9:00-15:30 日本語学科の大学生と交流

- ・マカッサルについてのレクチャー
- ・アイスブレイキング
- ・グループごとにキャンパスツアー

→Paotere 港

→両替所

→Sunset @Losari Beach

→夕食：シーフード

*ニューレジェンドホテル泊



2 日目@マカッサル

グループ観光：マンダラ・モニュメント（独立記念塔）

→昼食：Coto Makass

→グループ観光：ロッテルダム要塞/手工業センター

→Sunset@Losari Beach

*ニューレジェンドホテル泊



3 日目 移動

マカッサル出発

→昼食@parepare（綺麗な海や山が望めるレストラン）

→休憩@Lakawang 丘

→Saddan 村到着!!

- ・サダン村の人によるダンス



- ・文化紹介：ソーラン節、ヘビーローテーション
- *ホームステイ/トンコナン/ハウス(村民の別宅)泊

4日目 @トラジャ

- 観光：Londa 村/Lemo 村/Boli 市場
- *ホームステイ/トンコナン/ハウス泊



5日目@トラジャ

- 小学校訪問
- 孤児院訪問
- *ホームステイ/トンコナン/ハウス泊



6日目@トラジャ

- 水牛マーケット
- トラジャコーヒー事務所訪問
- お葬式見学
- *ホームステイ/トンコナン/ハウス泊



7日目 @トラジャ

- お葬式見学
- ショッピング
- 豚の解体
- フェアウェルパーティー
- *ホームステイ/トンコナン/ハウス泊



8日目 移動

- タナトラジャ出発
- 休憩@Lakawang 丘
- マカッサル到着
- トラジャ EX 終了！！ニューレジェンドホテルにて解散



勉強会

日程：2012年7月7～8日

スケジュール：

1日目

- 10：30-11：00 打ち合わせタイム
- 11：00-12：15 プレゼンタイム 1
- 12：15-13：15 昼休憩
- 13：15-14：00 プレゼンタイム 2
- 14：00-14：10 休憩
- 14：10-15：40 文化紹介内容決め

2日目

- 10：00-10：15 前日フィードバック
- 10：15-10：40 プレゼンタイム 3
- 10：40-12：40 全体内容決め
- 12：40-13：20 昼休憩
- 13：20-15：10 役職からのお話（報告書/ビフォー・アフター/チケット係）
- 15：10-15：20 休憩
- 15：20-16：50 ダンス練習
- 16：50-17：00 団長からのお話



次ページから、班別まとめ

- 宗教
- 挨拶・習慣・タブー・お葬式
- 衣食住
- 政治
- 経済

宗教

担当：吉澤賢、岩崎薫、鳥丸大貴、坂下佳穂（リーダー）

☆ 生活に根付く宗教

男女間の区別

男性・・・敵から自分たちの陣地を守るために戦う戦士。

女性・・・超自然的な現象から陣地を守るガーディアン。

病弱や力の弱い男性・・・女装して一生を女性として過ごす。（チャラバイ）

☆昔は、一度女装すると決めたら二度と男性に戻ることは出来ないとされていた

→→→問題点：コル（精神病）

上述のように、男性は強くあらねばならない存在。一生の間に何人もの女性を自分のものにすることが理想とされることからかかるプレッシャーからおこる病気。恐ろしい病気。

神話：土着信仰のアルク教→キリスト教

土着信仰

アルク教、正式にはアルクトドロ教。アルクトドロとは「祖先の教え」という意味。多神教。天にいる最高神の下に大地や水牛の神もいる。

人間だけが頭、胴、足を持っているのではなく、森羅万象も持っていた。

人間は元々胴だけだった。+生命力となって手足が生えて人間に！

宗教と食

トラジャはカトリック！キリスト教なので、豚肉はOK。

インドネシア料理はないというのが食料評論家の意見

「多様性のなかの統一」がポリシーなのでいろんな料理が混ざっている

パダン料理に注意！10品目並んでいく、メニューない。食べた分だけ支払い。

断食「プアラ」。主に8月。イスラム教徒の日中断食。日中は食べてはいけません期間。

シャーマン（呪術師）マカッサルには30人も呪術者がいる（！？）

村社会

村社会すぎて加害者が警察親族の場合などは、調書を書くのをうざがられたり小遣いを請求される（´・ω・`）

犯罪の発生率はスラウェシ島が一番高い（1995年）（´・Д・`）

シリ（名誉と恥）のために犯罪が多い

→バカにされて黙っているのは犬と呼ばれる（社会的な死を意味する）

☆ 盛大な葬式

なぜ葬式を盛大にするか

トラジャ族の社会において、葬儀はその人の人生で最も重要な儀式。死者の魂は、プヤ（＝魂の地）に入るとき、現世での社会的地位を明らかにしなければならないため、財力や権力をつくした盛大な葬儀になるが、そのような葬儀を行えるのは貴族だけに限られる。

トラジャ族は死を断続的なものと捉えず、プヤと呼ばれる魂の地へ至るゆるやかな流れの一環と捉えている。

トラジャ葬式のやり方！！

1. 肉体的に死ぬ→体をきれいにして香油を塗る→吸水性を持つ生地の手拭でぐるぐる巻く→自宅に寝かせとく（だんだん乾いていく。これを「もがり」という。）

この「もがり」の間、死者の魂は村の中を一時的に彷徨っているだけであり、遺体は生前同様に家族と共に過ごす。葬儀は多くの場合収穫期に行われるため、もがりも数ヶ月間続く場合もある。（この時はまだ生きている、事になっている）

2. トンコナンでのもがりが終わると式場へ移動

泣き叫ぶ声、笛、歌といったトラジャ伝統の悲嘆の表現で死者の死を悼む。

また、水牛や豚の屠殺が行われ、その人物が持つ権力が大きければ大きいほど屠殺される頭数も増える。最大で5日位

3. 葬儀が終わると、遺体は棺に収められる。棺が安置される場所は三種類。

- 断崖の室・・・富める者が収められる断崖の石室は、掘り上げるまでに数ヶ月がかかり、費用もかかる。
- 石質層の洞窟・・・家族全員さえ安置できるほど大きなものもある。
- 断崖・・・バルコニーが設けられ、外界を向いたタウタウと呼ばれるパラミツの木で作られた像が置かれる。赤ん坊や子供の棺は断崖や木に吊るされ、ロープが朽ちて地面に落下するまで何年もの間そのままにされる例もある。

☆ インドネシアの宗教戦争

公認宗教はイスラム（9割）、カトリック、プロテスタント、ヒンドゥー、仏教（その他道教、儒教など）：政党によりイスラム教優遇はあるが、信仰の自由は保証されている

☆もともとインドネシアはアニミズム信仰の土着信仰

→第2次世界大戦で敗戦、ポルトガルの影響を受けてキリスト教がはいりこむ

→アニミズム信仰が認められない時期もあった。

→アニミズム信仰の変容

（元からアニミズム信仰、アルク教は光と闇の対比が見受けられ、もとは出産、命や生に関する儀式もあった様子。だがキリスト教の台頭により命の誕生の儀式は教義に反するとして廃止され、それ以来文化からすたれてしまった。）

挨拶・習慣・タブー・お葬式

担当：郡山めぐみ(リーダー)・佐竹里砂・木村竜也・池田早希

☆ 挨拶

挨拶の仕方

握手をする→握手をし終えた際手のひらを軽く自分の手を胸に

*ゆっくりと丁寧に！→急いで紹介したりすると失礼。

*やわらかい握手と目線をさげて笑顔であいさつ・^^

※イスラム教の被り物を身に付けている女性には触れないように。

女性と握手する場合は女性の方から握手を求めてくるのを待ち、やわらかく握手を。

☆ タナトラジャ葬式について

タナトラジャの葬式ってどんなもの？

トラジャではお葬式のためにとても大金をかける。そんなお葬式までの年数は、なんと、亡くなってから数ヶ月から数年、長ければ5年以上も。葬式に結構な費用のかかること、そして親族全員の都合を合わせないといけないため、こんなに長年かかってしまうのだ。

葬式までの流れ

生前に、死者人形である タウタウ と呼ばれるものをつくります。死後からお金ができるまでの間、死体にミイラ処理を施し、家に置いておきます。

お金が用意できるとようやくお墓（崖に作られることが多い）が作られます。お墓のそばに、先程のタウタウを飾ることで故人に代わり遺族を見守ってくれていると信じられています。

※ なおお供えとして牛や豚が殺される。生け贄の動物としてその肉は振る舞われるが、こうすることで仏が天国にお供えを持っていくことができるとされる。

☆ タブー、マナー、一般常識

物を渡すときは右手で

インドネシアでは左手は不浄の手。右手はものを食べるとき、左手はトイレで尻を拭くときと、はっきり使い分けている。このため、左手でうっかり人にものを手渡ししたりすると、イヤな顔をされることが多い。どうしてもそれが難しい状況ではこの限りではない。

⇒左右を意識はできなかったが、おそらく大きく注意する人はいないであろう。

必要以上に肌を露出させない

イスラム教では本来、女性は人前で膝、肘より身体の内側を人に見せてはいけない。これは、イスラム教以外の文化圏でも同様のことが多い。ジャワのクラトン（王宮）などでは、ノースリーブや短パンでは入場を禁止されるところもある。
⇒暑い昼間であろうが、長袖長ズボンの女性がほとんどでした。

飲酒の習慣

インドネシアでは、ムスリム（イスラム教徒）は禁酒であることから一般的にたくさん酒を飲むという習慣がない。実際は、ムスリムでもビールを少しぐらいならば飲むという男性が多いが、やはりムスリムにはこちらから酒を勧めない方が良好だろう。
女性の場合、宗教に関係なく酒を飲むことが「ふしだら」であるという観念がまだ根強く残っているようだ。⇒女性のこの概念は特になかったと感じる。

インドネシア人の家を訪れる時に

相手が敬けんなムスリム（イスラム教徒）の場合、1日5回の礼拝の時間は避ける。家を訪問したときには、まずテラスに上がる前に靴を脱ぎ裸足になるのが礼儀だ。
⇒ハサヌディン大学の礼拝堂ではきちんとされていました。

トイレ

都会に行けばトイレはあるが、トイレにトイレットペーパーはない。右手で桶を持ち、左手で洗う。使用後は水がはいった桶をクイッとひねり流す。⇒持参したトイレットペーパーを流してしまわないように注意！

人を呼ぶとき

人を呼ぶ際には手のひらを下にし、指を根元から動かす（日本と同様の仕草）。
⇒期間中、気にしたことはありません。

歯磨き

人前で歯磨きするのは失礼⇒サダン村では家の外でしてましたが何も言われませんでした。

水牛は富の証

親族は相互主義で、共に耕し、水牛の世話をし、負債も皆でおう。水牛所有等頭数で富が決まる。⇒頭数だけでなく水牛の種類によっても違うようだ。

衣食住

担当：松嶋秀太（リーダー）、岩渕将之、柳瀬梨央、梶山有希子、山内菜摘

◇ 民族衣装（出典「世界の民族」）

最も古い衣服は樹皮でできていた(山岳部では 20C も引き継がれていた)。織の技術は有史以前のもので、インドネシア諸島は手織り布の種類が世界で最も豊富である。織は、創造の過程を象徴し、女性が行う作業であった。布を織る＝崇めるべき行為とされていた。現在、多目的な日常着として、縞模様・格子模様のサロン(salon)が用いられている。

スラフェシ島、トラジャ

他諸島と同様にサロンを普段は腰に巻いて用い(寒い時や人前に出るときは頭にかざして用いる)、航海術に優れたブギス族のバジュボネ(badju bone)のような貫頭衣なども存在する。スラフェシ島の中でも織物で魅力的な土地のトラジャは、重要な儀式や儀礼のとき、ポリュミーなスカート・筒型の頭飾り・ブラウス(レンバ)を着ていた。

(左から、樹皮の衣服、サロン、トラジャの重要儀式の衣装)



◇ 住居：トンコナン

- ・高床式家屋で割竹を幾層にも葺いた巨大な舟型屋根。これはトラジャ人の祖先が乗っていた船首の形だと言われているが、居住する一家族だけのものではなく、これを建てた祖先のすべての子孫のものと考えられており、いわば親族統合のシンボル。

- ・前柱には儀礼のたびに犠牲になった水牛の角が飾られている。その角の多さで家の家格を誇示しており、周囲の壁面は水牛（富と権力）や鶏（神の使い）それに太陽（太陽崇拝）や蛇（農耕神）などの文様を描いた彩色彫刻が見られる。

- ・必ず北向きに建てられているが、これはサダン・トラジャが北を神聖な方位と見なしているためである。

- ・床下は通常、水牛の畜舎とされている。

☆ トラジャ衣食住～お菓子～

・エスチャンプル：スライスしたフルーツ、ジュース、タピオカなどが入っているかき氷。料理店や屋台で購入することができる。また、ジャックフルーツ、アボカド、ココナッツミルク入りの「エステレル」というものもある。インドネシアでは、かき氷も飲み物とされ、食事中にかき氷を食べる（飲む）人もいるらしい。インドネシアの水道水は衛生的に良いとはいえないので、飲み水は市販のものをかうのが好ましい。飲み水は「アクア」、氷は「エス」といい、エスのつく食べ物はアイスティー以外ほとんどがかき氷である。



・エスチンチョウ：チンチョウと言う葉で作られた緑のゼリーにココナッツミルクやシロップなどが入ったスイーツのようなドリンクのようなもの。

・ルジャッ：新鮮なフルーツにグラメラという赤い砂糖を混ぜ、更に唐辛子を入れるという、甘いのか辛いのか、突っ込みたくなる食べ物。

・テボトル：砂糖入り甘いジャスミンティー。インドネシアで人気。

・コピ：インドネシアのコーヒー。コーヒーフィルターを使わず、挽いた豆と砂糖をグラスに入れて湯を注ぎ、上澄み液を飲む。この二層に分かれたコーヒーのことを「コピトゥブルッ」という。トルコのコーヒーと酷似しており Bali と Java の地域で有名。



☆ おみやげ

ケチャップマニス

ただのケチャップではない！独特な甘い風味が特徴で、日本で言う焼き鳥のたれのよう。ケチャップというより醤油のような後味。これがないとインドネシア料理を堪能できない。



トラジャコーヒー

第二次世界大戦以前から生産が行われ、オランダ王室御用達に指定されるほど高い評価を受けていたが、インドネシア独立後オランダ人がいなくなると作るのがなくなったので衰退。このときから「幻のコーヒー」と呼ばれていたそう。しかし近年日本などのコーヒー企業の尽力により再びコーヒーが市場に戻ってきた！！

イカット：絣（かすり）

いろいろな技法を駆使して模様を作り出すかなりの職人技です。これがおみやげ No.1!!

コテカ

下着兼正装。彼らの価値観から「勇敢さ」を象徴する大切な衣装。固定するのが大変むずかしいらしいですが現地の人は難なく取り付けています。すばらしい！！インドネシアとパプアニューギニアで幅広い民族がこのような格好をしています。

ガルダの彫り物

ガルダとはインド神話で出てくる炎の様に光り輝き熱を発する神鳥のことを指す。インド神話において人々に恐れられる蛇・竜のたぐい（ナーガ族）を退治する聖鳥として崇拝されている大変清らかな小鳥。インドネシアの国章だけでなくタイの国章にもこのガルダがモチーフとなっている。



☆ 食文化

インドネシア料理とは

一口にインドネシア料理と言っても地方差があって実に様々。同じ名前でも地域ごとに使用する香辛料や調味料が異なったりするので、微妙な味の違いを楽しむことができます。

伝統料理

●ナシゴレン（ナシは「ご飯」、ゴレンは「揚げる」）

見た目は日本で見るチャーハンとあまり変わらないが、特徴はサンバル、ケチャップマニス、トラシなど現地特有の調味料を使うこと。皿に盛られるときにたいてい、多めの油で片面焼きした目玉焼き、揚げせんべい（エビ味）のクルブック、そしてキュウリ（特大サイズ）とトマトの生野菜が添えられる。

●ミーゴレン（ミーは「麺」）

現地特有の香辛料をふんだんに使用したエスニック風焼きそば。日本の焼きそばと外見の差はなく炒めて作るのも同様。地域によって香辛料が異なることが特徴。

●サテ

インドネシアを代表する串焼き。肉の種類はケバブの様にさまざまあり、主に鶏肉、牛肉、山羊肉など。お店にはもちろん、屋台などでも多くみられ、どこでも買って食べられる。

トラジャの伝統料理

ぷちぷち歯応えがある黒米。竹筒の中に鶏肉を入れて野菜やココナッツを詰めて蒸し焼きにしたパピヨンという肉料理。右の写真に見えるのはパセラサンという黒い牛の料理。



キーワード

アヤム (Ayam) 鶏、サピ (Sapi) 牛、カンビン (Kambing) 山羊、イカン (Ikan) 魚、バビ (Babi) 豚、ウダン (Udang) えび、チュミチュミ (Cumi-cumi) イカ、クピティン (Kepiting) カニ、クラン (Kerang) 貝、ダギン (Daging) 肉、サユール (Sayur) 野菜、ゴレン (Goreng) 炒める／揚げる、ルブス (Rebus) 茹でる、チャンプル (Campur) 混ぜる、バカール (Bakar) 強火で焼く、パンガン (Panggang) 焼く、トゥミス (Tumis) 炒めて少し出汁を加える、グレイ (Gulai) ココナッツミルク煮、ソト (Soto) スープ、カレ (Kare) カレ

政治

担当：石井亜理沙(リーダー)、山本彩代、榮口徹哉、森本悠生

☆ インドネシアの内政

イスラム教

国民の90%をしめる。そのため少数派宗教の国民の声があまり反映されない。インドネシアでは信仰の自由が定められており、イスラム教が国教ではないのだが、スハルト大統領を始め政府はイスラム教の勢力の支持を取り込もうとイスラム重視の姿勢を次々に打ち出している。

汚職体質

“文化の領域”にまで達したとまで言われるほど政府最上部から下級公務員にいたるまで、汚職・不正が蔓延している。理由は公務員の正規の給与だけでは絶対といっていいほど生活ができないから。特に日本人は狙われやすいので注意。(例：通常の4倍の水道代の請求がきたことがある etc)

国内移住政策

熱帯雨林をもつインドネシアで人口の分散を狙った国内移住政策のこと。毎年青森県の広さと同じくらいの森林面積が移住、開発、火災で消失。国の面積の7パーセントをしめるだけのジャワ島に全人口の60パーセント近くが住んでいる。

☆ インドネシアの地方自治

全体構造

国の下には州があり、その下には県・市・村・郡・区が存在する。

力の関係は⇒ 国＞州＞県・市（＞郡＞区・村）

ここで面白いのが州・県それぞれが地方政府を持つ形式をとる、2重統治の形式をとっていることである。

また、インドネシア政府において地方制度の管轄は内務省。ジャカルタやジョグジャカルタなど地縁的・伝統的自治を行う村及び国益にとって重要な地域は特別地区となっている。

地方政府の仕組み

官房局、議会事務局、事務局、技術機関、

郡、区、風紀取締隊、地方議会

ここで面白い点は人口と行政区域面積と歳入歳出予算規模によって地方政府で所有できる組織数を決めている点と病院が技術機関にふくまれている点。さらに、風紀取締隊という地方条例違反を取り締まる役がいる。あくまでも彼らは議会の人間で警察ではない。

地方議会

議長団、議会運営委員会、常任委員会、懲罰委員会、予算委員会

日本とは違い、議員は通年。実際に何を議題としてあげるべきか調査勉強の必要性があるため、毎日拘束が基本である。政治家の鑑ね。選挙方法は直接選挙制で、選挙立会人が居ります。

立候補には党所属、無所属にしろ必ずペアを結成すること。唯一至高神への信仰を行っていることが条件とあり、政治と宗教がゆるやかに統合している感が見受けられる。

私が一番驚いたのは選挙権である。17 歳以上 or 既婚 or 結婚経験のある人なのだ。つまりインドネシアでは結婚をしたひとはその時点で何歳であろうと大人と見なされる。所帯を持つ責任を大きく評価しているのだろうか。

◇ 国の政治

投票率

日本

インドネシア



国家情報庁 (こっかじょうほうちょう、インドネシア語で

Badan Intelijen Negara)

インドネシアの情報機関、秘密警察。通称 BIN。



◇ 政治におけるスローガン

インドネシアは多民族国家であり、種族・言語・宗教が多岐にわたる。そのため国家としての統一性を示すために、以下のスローガンが制定された。

「多様性の中の統一」

1. 唯一神への信仰
2. 人道主義
3. インドネシアの統一
4. 民主主義
5. インドネシア全国民への社会正義

◇ インドネシアの家計簿

生活用品費 [食費・嗜好品費等含む]

Rp. 500,000.-

養育費 Rp. 300,000.-

水道代 Rp. 50,000.-

光熱費 Rp. 60,000.-

電話代 Rp. 200,000.-

交通費 Rp. 250,000.-

経済

担当：松尾咲穂(リーダー)、山本梨世、下郡瑛理、中瀬有紀

☆ インドネシアランキング

経済成長率

日本の経済成長率は2011年は0%、近年はマイナス成長を記録するなど、経済状況の停滞が見受けられるのに対し、インドネシアは2011年には6.5%を記録するなど、経済発展がとて著しい国。ちなみに、この成長率は、日本の1980年代のころのものと同等。

世界183カ国の経済成長率を順位付けしてみると、インドネシアは36番目に発展している国としてランク付けされているが、日本は174位と世界的に見てもかなり停滞している。

貿易相手国

インドネシアの2011年の貿易データでは、輸出相手国の第一位は日本であり、貿易総額のうち16.6%を占める。インドネシアの輸入相手国の第三位にも日本はランクインしており、経済的な結びつきの強さがここから見ることができる。経済成長が進むインドネシア市場は今注目されている東南アジア市場の一つであり、日本もインドネシアへの経済的な進出を進めている。

☆ お金について

お金の単位・レート(紙幣・硬貨の種類)

お金の単位はルピアでRp.と表記。レートは1円=117ルピア；85円=10000ルピア(2012年7月7日当時)です。硬貨は100、200、500ルピア(2種類)で計4種類、紙幣は500、1000、2000、5000、10000、20000、50000、100000ルピアで計8種類ある。

主要なものの物価と給料

水(ミネラルウォーター1.5リットル)：2000ルピア、米(1キロ)：3000ルピア、ビール(缶ビール350ミリ)：8000ルピア、散髪代(1回)：10000ルピアと一般的に物価は日本の物価に比べて非常に低い。一方、トヨタのイノヴァ(車1台)：18000万ルピア、水牛：300~600万ルピアと日本製品やお葬式に捧げる貴重なものとされている水牛は非常に高く売られている。現地の方の給料は、ジャカルタ最低月収は約107万ルピア、平均月収は約129万ルピア。日本人の平均月収は31万円なので、ジャカルタ平均月収の約30倍となる。

乗り物と運賃

主要な乗り物(移動手段)は、タクシー、ペテペテ、バジャイ、ベチャ、オジェの5種類がある。タクシーは、初乗り5000~6000ルピア、それ以外の乗り物は基本的に値段交渉制。ペテペテはワゴン車のようなもので11人まで乗れ、2000ルピア~1時間以内な

ら5000ルピア程度。バジャイは三輪車自動車タクシーで、タクシーより少し安い程度。ベチャは、自転車に2人乗りの座席がついたものです。値段は5000ルピアからで、自転車のかわりにバイクのついたベチャマシーンもあります。オジェは、バイクタクシーで、1〜2キロで7000ルピア程度。

☆ 教育について

教育制度

義務教育は日本と同じ6・3・3制で、大学のほとんども現在は4年制である。卒業時には統一国家試験を設けており、就学率は小学校95%、中学校90%、高校70%、大学30%と高い。しかしこれは都市部の話であり、農村部では小学校に入学しても経済的な理由から中退する児童も多くいるのが現状である。

授業

インドネシア語での授業が基本で、小学校1年生から英語の授業を受けている。小学校は7:00〜13:00まで授業(45分授業×8回、休憩1回)で、給食はなくお昼は家で食べる。

制服

インドネシアの制服は曜日や学年ごとで色が変わる。(以下インドネシアの制服)



☆ 観光業

インドネシアには毎年多くの日本人観光客が訪れる。2011年の日本人訪問者数は415,088人で全訪問者数の約5.4%となり、昨年同様シンガポール、マレーシア、オーストラリア、中国に続く5番目に多い訪問者数だ。

サプタ・ニルワンダ観光・創造経済副大臣によると、インドネシアにとって観光産業は石油、ガス、石炭、油ヤシに次ぐ外貨獲得源で、2011年の外国人観光客数は約720万人。彼らによってもたらされた外貨は85億米ドル(約8000億円)だそうだ。ちなみに2012年5月に南スラウェシ(マカッサル)を訪れた日本人観光客は7人で、バリやジャカルタに比べるとここを訪れる日本人観光客はかなり少ない。

タナトラジャの観光名所

トラジャはエコツアー、文化、冒険を楽しむ人に最適！！

見所：棚田、葬式儀礼、舟型家屋トンコナン、ボリ、ロンダ、レモ、ケテクス etc…

文化紹介総括

☆ ダンス（リーダー：下郡瑛里）

文化紹介ダンスは、《ソーラン節》《うらじゃ》《ヘビーローテーション》をチョイスし勉強会でみんな練習しました。そしてハサヌディン大学、サダン村、孤児院、小学校など様々な所で披露しました。インドネシアの人たちは芸達者でクオリティーの差がありすぎて申し訳ないと思うことがありましたが、する側・見る側ともに楽しめたので良かったです★日本人メンバーは練習時間の少ない中覚えてくれてほんとに感謝です！みなさん本当にありがとうお疲れ様でした！

☆ 歌（リーダー：柳瀬梨央）

「心の友」「空もとべるはず」「桜」「明日があるさ」「ドラえもののうた」「ベストフレンド」の6曲を歌いました。「心の友」は日本ではあまり知られていませんがインドネシアでは有名らしく、村の人たちも一緒に歌ってくれました。日本のアニメも有名なのでNARUTOやONE PIECEの有名どころを歌ったら盛り上がるかも。孤児院では出し物合戦みたいになったので、引き出しは多い方がいいと思いました。

☆ 遊び（リーダー：吉澤賢）

今回僕は遊び班のリーダーをやらせていただきましたが、色々と考えさせられました。例えば他のリーダーとの兼ね合い。僕はもちろん遊びについて考えていますが、小学校、孤児院の訪問担当者も当然子供たちと何をして遊ぶのか、考えていたわけです。そこでそのリーダーさんたちと、遊びについて一緒に検討するのは当たり前のことだと今では思うのに実際にはしなかった。。。だから、準備した道具がかぶってしまったり、もっとあったほうが良いものが不足したりした。また、認識不足。大学生との交流の時の話です。時間が余って、急遽大学生に日本の遊びを紹介することになりました。あの時ハンカチ落としをしましたが、実を言うとおおまかなことしか分かっていませんでした。何とかなるだろう、周りがフォローしてくれるだろうって。幸いみんながあの時細かいルールを口々にしてくれたおかげで助かりましたが、僕はあの時ひやひやしっぱなしでした。。リーダーとしてあるまじき姿でした。何とかなるだろうって考えておくのは、考えるのを放棄することで、すごく楽なんです。それに流されてしまったんです。情けない。

以上、なんか愚痴っぽくなってきたのでやめますが、やはりただ単に参加するのではなくリーダーという役職に付くことで得るものは大きかったです。これからも、積極的に行動していこうと思います。長文失礼しました。

日別活動報告【日記】

9月5日(0日目)

ざっくりスケジュール

クアラルンプール空港マクド前集合→14:35 クアラルンプール発→17:50 マカッサル着→マルセルさんたちと合流→ハサヌディン大学の学生数人と夕食→ホテル帰宅→確認→就寝

「朝食の水は飲まない」

そう固く誓って目覚めた0日目の朝。ここ、クアラルンプールに到着してもう3日目になる。昨日は愚かにも、朝食で出された水を反射的に飲んでしまった。ごくりと一口。口に広がるカルキ臭。さっそくやってしまった。午前中の僕の腹調は想像に難くない。

そんな事件もあったので、細心の注意も払いつつ朝食をすます。同じテーブルには白人男性が一人。名も知らぬ同席者との会話は旅の醍醐味だと思う。ただ、眠気が抜け切らない僕の頭を、訛りの強い **Ausie English** は心地よく素通りしていった。See you オーストラリア人消防士。娘さんは看護師だったかな。

程なくして、イルシア組全員がそろったので、僕も急いで荷物をとってきて出発。モノレールで **KL** セントラルへ。そこからバスで空港へ。モノレールの切符が面白かった。見た目は青いプラスチックのコイン。改札を入るときは、**PiTaPa** のようにタッチ。出るときは改札機に投入する。使い回しがききそう。エコやな。どうして日本では導入しないのだろう。

空港に着いて、マクドナルドで昼食をとった。フィレオフィッシュの **M** サイズセット。基本的にこれまで行ったどの国のマクドナルドにも行ったが、マクドナルドという店はどこの国もクオリティが変わらない。非常にすごいことだと思う **high quality** かどうかはあえて言及しないが。

食べているうちに続々と皆集まってくる。やがて集合時間。人数確認。20人。1人足りない。りさが来ていない。焦った。だが割と余裕で間に合ったので良かった。無事に21人そろってマカッサルへ。

ついに、マカッサルのハサヌディン空港に到着。皆まだ **VISA** を取得していなかったもので、親切な係員の案内で **VISA** 取得部屋(?)へ。彼は終始ナイスガイで、自分の番が終わるとソファを勧めてくれた。おかげで、皆、待っている間くつろげた。その部屋を **ISA** マカッサル支部部室だと言い出す不屈き者が数名。また、天下の神戸支部長山内氏がマカッサル支部員になるなどという妄言を言っていたような気がするが、聞かなかったことにする。

Arrival に着くと、そこには噂のマルセルの姿が。黒い長髪にふくよかな体型、あまり高くない身長。初めて見るのに、どこかで見たことのある容姿。後から気づいたのだが彼はマラドーナにそっくりだ。サッカーはさほど上手くはなかったが。

その後、夕食のレストランに着くまでに、彼はいろいろな話をしてくれた。インドネシアの民族や言語の話、バルバラさんや運転手さんの紹介など。どの話も面白かったが、最も印象に残っているのは“キラキラ”の話。これは、インドネシア語で「だいたい」という意味である。インドネシアの人々は基本的に時間にルースだという話だった。

そして、待ちに待った夕食。交流の打ち合わせのために、ハサヌディン大学のリド、モニカ、エイ、ニニも一緒であった。僕たちはマルセル、バルバラさんと今後の打ち合わせがあったのでほとんどしゃべれなかったが、翌日以降の展開に期待が膨らんだ。ちなみに、メニューは早速ミーゴレンとナシゴレン。どちらも非常においしかった。

夕食後はまっすぐホテルへ。既にここまで、内容の濃い数日を過ごしてきたが、いよいよ明日から正式にトラジャ EX.が始めると思うと、気が引き締まった。

鳥丸大貴

9月6日(1日目)

ざっくりスケジュール

起床→朝ごはん→8:00 ホテル出発→8:45 ハサヌディン大学到着→9:00 大学生と交流(ニニちゃんレクチャー、自己紹介、アイスブレイク、キャンパスツアーなどなど)→Paotere 港観光→両替→ロサリビーチ→晩御飯→勉強会→就寝

トラジャ EX02 の1日目はハサヌディン大学日本語専攻の学生との交流！はじめは日本語学科の教室に行きました。中にはひな祭りの7段お雛さんがきっちり飾っており、たくさんの日本語の本がありました。その中には日本史の教科書や手品の本までありました。

次に広場のようなところに集まって自己紹介。インドネシアの学生は日本人以上にシャイでした。そのあと「あなたのことを知りたい♥」ゲーム(5分間で日本人3人インドネシアの学生3人で名前・学年・趣味・将来・マカッサル or 日本で行きたいところを聞いていくゲーム)。日本のサブカルチャーが人気で AKB 嵐(1番人気は松潤) NARUTO ONE PIECE のだめカンタービレ テニスの王子様 など次々漫画や歌手の名前がでてきました。AKB のともちんを「神押し!!」と言っていたインドラ君は後でオタ芸や AKB のダンスを披露してくれました。インドネシアの学生さんたちは私たちが話していることを書き取っていたり、分からない単語は辞書を引いたり一生懸命話を聞いてくれていたので話している私も理解してもらおうとゆっくり話たりととてもいい交流ができました。でも、時間があっという間であまりたくさん話をできなかったことが残念でした。

次は、グループに分かれて学生さんたちにハサヌディン大学を案内してもらいました。ハサヌディン大学は「ここは大学!？」と驚くぐらい自然が多く、敷地がものすごく広く学生さんたちも道に迷うほどだった。大学内には各学科の教室の他にも同じ専攻の生徒が自由に過ごせる部屋があり、その部屋では先輩が後輩の勉強を見てあげたりしているそう

で、すごくいい環境だなと感じました。インドネシアの学生はとても勉強熱心でとてもいい刺激を受け、新たな課題も見つけることができました。



大学内にある大きな池
池を渡る橋らしき木を渡るのはなかなかの
スリルがあるので、4年生の人も初めて渡
ったと言っていました。



部室
謎のオブジェ 黒集団のドラマ部？
文化部の方では伝統的な踊りを披露しても
られました。

柳瀬梨央

9月7日 (2日目)

ざっくりスケジュール

起床→朝ごはん→ホテルで学生と合流→モニュメント曼荼羅→文化紹介、ハサヌディン大
学側の文化紹介、ハンカチ落とし→昼食→ロッテルダム要塞→ソムバオブ通りで買い物→
ロサリビーチでお別れ→晚餐

朝。ハサヌディン大学のみんながホテルまで迎えにきてくれました。今日は日本人 3 人
×インドネシア人 3 人の 7 チームに分かれてマカッサル観光です。さあペテペテに乗りモ
ニュメント曼荼羅へ！ペテペテとは、3000 ルピアで路線内なら好きなところで乗り降りで
きる乗合タクシーです。荒い運転に東南アジアを感じながらわくわくを募らせるわたした
ち。マカッサルの中心部にあるモニュメント曼荼羅は 75 メートルの高さを誇る歴史資料館
ですが、到着した私たちに残念なお知らせが…。なんとエレベーターの故障で塔の上には
上がれない、とのこと。チームごとに暗い館内を回り、芸の細かい模型に驚きながらマカ
ッサルの歴史を学んだ後、時間があつたので、私たちは広場でソーラン節とヘビーローテ
ーションを披露しました。AKB48(ともちん)大好きなインドラのおかげで盛り上がりまし
た。インドネシアの伝統的な踊りを鑑賞して、あまりのクオリティーの高さと美しさにお
ののいた後、2 チームに分かれハンカチ落としをしました。私のチームの罰ゲームは尻字で
した。私個人の勝手な思い込みで、ムスリムがそんな破廉恥な行為を受け入れてくれると

は思っていなかったので、ハサヌディン大学の子たちの日本文化を受け入れる前向きな姿勢にはたいそう感動しました。楽しく遊んだ後はみなでお昼ご飯を食べに行きました。チョトマカッサルという、お肉のスープに白米を投入して食べるマカッサルの伝統料理でした。とても美味しかったです。今日は金曜日、ということで、途中でハサヌディンの男の子たちはモスクに御祈りに行きました。

昼食後は、再びペテペテに乗り込みロッテルダム要塞へ向かいました。ロッテルダム要塞は要塞の歴史館でありマカッサルの文化博物館でした。暑さを堪えて各班で要塞内を回った後は、ソムバオブ通りへ買い物に行きました。ここで全員がマイサロンを安く購入しました！思う存分お店を回ったら、ロサリの夕日を見に行きました。班のみんなで乗ったボート、楽しかったです。みんなで食べた焼きバナナ、美味しかったです。みんなで見た夕日、儂くて綺麗でした。ただただ、別れが悲しかったです。こんなに良い出会いになるとは、たぶん誰も想像してなかったと思います。また絶対会いたいな。その後、今回の交流プランの中心となって企画してくれたハサヌディン大学のニニちゃん、モニカちゃん、リド君の3人と、インドラ君と一緒に夕食を食べました。めっちゃ美味しかったです。

こうして私たちの2日目はまるでEXの終わりであるかのような充実感を私たちに与え、盛大に幕を閉じました。



中瀬有紀

9月8日（3日目）

ざっくりスケジュール

起床→朝ごはん→8:00 ホテル出発→バス移動→昼食→バス移動→景色のいいところで休憩
→20:00 サダン村到着→文化紹介→晩御飯→就寝

ハサヌディン大学の生徒たちとの交流も昨日でついに終わり、マカッサルからタナトラジャ、サダン村への移動～。この日は8時集合という結構な早起きだったけど寝坊者は0!!
移動手段はバス1台と荷物乗せたワゴン車の計2台で出発(・ω・)
バスの中ではキムタツがスピーカーでガンガン音楽鳴らしてくれてて、カラオケ気分な人

もいれば、寝てる人もいてみんなそれぞれ(*´ω`*)

4時間ぐらい進み parepare という海が展望からのぞける素敵なレストランで昼食☺

みんな寝起きで顔が死んでたw料理も豪華で美味しくて、トイレもめっちゃ綺麗でいいとこでした(*^^*)それからまた車を2時間ほど走らせ、Lakawang 丘という所でトイレ休憩！ここから見る山は絶景で壮大な自然をみんなでコーヒー・紅茶そしてお菓子を頬張りながら一休みしました♥そしてここからまた約4時間バス移動(´Д`)

寝ても寝ても寝たりない私(笑)そして 19 時ごろついにサダン村到着!!運転手さんありがとうございました!!バスがでかすぎてついこの前に建てられた結婚式用の門がひっかかり破壊(笑)村の人達は私たちの到着を待っていてくれてついてすぐに中学生～高校生ぐらいの女の子たちがトラジャの伝統ダンスを踊ってくれました。そしてなぜか停電w

暗闇の中でさっそく子供たちと追いかけて遊んだ^^元気～

一時して停電も直り夜ご飯～♥村の人達が用意してくれてたみたいでとっても美味しかった!!そしてホームステイ組とトンコナに分かれる予定だったのが急遽ホームステイが1ペアしかできないということになり、ホームステイ組、トンコナン、ゲストハウスの2つの計4つに分かれそれぞれ就寝(-_-)zzZ あれだけバスで寝たけど普通にぐっすり寝れました(笑)今日は本当に移動だけだったけど、車酔い重症者もでず、無事到着できて良かったと思う！



pareare



Lakawang 丘

池田早希

9月9日(4日目)

ざっくりスケジュール

7:00 起床→8:00 朝食→9:00 出発→お墓めぐり→村に帰る→子ども達と遊ぶ→夕食→自由時間→就寝

朝はトンコナンで目覚めた。起きてすぐ聞こえてきたのは「コケッコッコー!!」

サダン村に到着したことを実感させてくれたニワトリの鳴き声だった。初めて迎えるサダン村での朝。話に聞いていたとおり肌寒い。トンコナンから出てみると、もう子ども達は元気いっぱい遊びまわっていた。すっごく素敵な笑顔で HALLO! 子どもは世界共通で可愛

いなあ。昨日遅くに到着したので村の景色をじっくりみることはできなかった。今日、明るくなってみると、青空のもと綺麗にそびえ立つトンコナン。近くには川が流れていた。とうとうずっと待ち望んでいたトラジャ・サダン村での生活が始まったのだ。

今日のメインはお墓めぐり。LEMO 村では崖に穴をあけお棺を入れるタイプのお墓を、LONDA 村では洞窟の中にお棺を入れるタイプのお墓を訪問した。同じトラジャでも村によってお墓の形態がまったく異なることに驚きを覚えた。写真で見ていたような人骨やお棺、タウタウ人形にただただ圧巻した。自分が思っていたより人骨を見ても平気だった。マルセルさんの話によると観光に来た外国人がこの人骨やタウタウを盗んだり、お棺をこじ開けたりするらしい。死者を忘れないようにその人に似せて作られるタウタウ、修理するだけでも水牛を殺さなければならないお棺。盗んだ人たちはトラジャ人たちの「死」に対する想い、こういった事実を知っていたのだろうか。頭蓋骨だけがお棺の上に並べられているのも、観光客がお棺から取り出したからだという。その頭蓋骨にまるで飾りかのように突っ込まれたタバコ。トラジャ人は骨を触れないらしいので頭蓋骨をお棺に直したくても直せないのだ。観光客の軽率な行動がトラジャ人の思いを踏みにじり、大切な伝統、文化を絶やしてしまっている。長く絶えることなく続いているこの文化を外国人のわたしたちが絶やそうとしてしまっている。軽はずみな行動は止めてほしいものだ。

お墓めぐりが終わりサダン村に帰ると、待っていたのは温かいコーヒーと紅茶、そしてお菓子。村の方々が帰るたびに毎回用意してくれている。そして待っていたのはそれだけではなかった。元気いっぱい子ども達！今日で **Before** と合わせて 10 日目だった私は正直一日を終えて疲れていた。けど遊びだしたら止まらない！かけまわる子どもを本気で追いかけてまわす女子大生。元気もりもりの子どもに、逆に元気をもらった。お婆さんの私と遊んでくれてありがとう。明日も一緒に遊んでね。サダン村で初めて一日を過ごした。水でシャワーを浴びたり、トイレの水を桶で流したりとまだまだ慣れていないこともあるが、明日もまたきっと楽しいだろう。明日はどんな体験ができるのだろうか。

石井亜理沙

9月10日(5日目)

ざっくりスケジュール

8:00朝食→9:00出発のはずが、キラキラタイムはつどうにより、、、→9:30出発→9:40小学校着→11:30小学校発→12:30~14:00昼食→14:45~17:00孤児院→19:30宿着→晩御飯→就寝

朝から着付いたことは、みんなキラキラタイムに浸透してしまっていること。日本に帰ってからが心配です。。小学校では、4年生の国語の授業の見学、といってもほんの5.6分で、正直何がなんだか全く分からなかった。気付いたことは、日本と同じように、授業聞く気のないやつは後ろの座席にいてことですね。その後中庭に出て(小学生たちが寄ってき

て、有名人になった気分)、小学生20人ほどによる合奏。一生懸命な感じが伝わってきた。僕たちはソーラン節をした。「どっこいしょ」が気に入られたらしい。小学生は全部で100人ほど。後は思い思いに小学生と遊んだ。大縄、折り紙、ビーチボール、キャッチボール、フリスビー、シャボン玉。大縄が大好評だった。2本だったけど、ちょうどよかった。折り紙を一人の子供にあげたら、急にみんなが群がってきて、そのパワーでまじめに倒れた。あのパワーは危険。シャボン玉も同様だった。そういう場合は、先生にあげて、そこから一枚一枚分け与える形にしないといけないとマルセルが言っていた。そこまでしてほしがるのに、結局僕たちが帰る頃にはクシャクシャになってあちこちに捨ててある。そこには大分呆れてしまったが、これを通して人間の心理がちょっと分かったような気がする。帰り際にはみんなでごみ拾いをした。日本と違って、元からごみくずがたくさんあった。帰るときは、みんなが見送ってくれた。「チェース」といってハイタッチをしてくれる子供たち多数。昼ごはんを食べた後、孤児院では到着してすぐに、子供たちが歌と合奏を披露してくれた。よく練習出来ている感じの演奏だった。小学生たちよりうまかった気がする。人数は、思っていたより少なく16人だったし、小さい子ばかりではなく、小学校高学年から中学生あたりの子が多かった。孤児院側からの要請もあり、僕たちと孤児院側で歌と踊りをお互いに披露することになった。僕たちがやったのはドラえもん、コブクロのサクラ、うらじゃ、ソーラン、ヘビロテだったが、ヘビロテが妙に人気だった。なかでも、女の子より女の子らしいしゅーたさんが人気。インドネシアでも、JKT48がいるから、その影響なんだろう。共通項、これが文化交流において大事なことのかな。あと、うらじゃは、みんなを取り込めるからすごくいいものだった。こういうものを次回はさらに用意していればいいかなと思う。互いに披露しあった後、屋上の教室で紙粘土を作った。7、8人が1グループになって思い思いに粘土を操った。僕のいた班は手分けしてひとつの大きなバッファローを作ろうとしたけど、意思の疎通ができなくて結局それぞれの好きなものを作るようになった。英語が通じる子と通じない子がいたこと、通じていても十分とはいえないこと、自分たちの英語力が足りないことが、原因かな。でも、子供たちが夢中になって作っている姿が見れたので、全然ありだったと思う。ここで、とある二人が、饅頭とは似ても似つかないピンク色のものを作っていたのには思わず苦笑いwww 紙粘土の後は、90分ほど、自由に遊ぶ時間。スペースが限られていたので、がっちゃん将棋、将棋のこまでジェンガ、ダルマ落とし、けん玉、風船バレー、花いちもんめ、大富豪とかをやった。大富豪は、バルバラさんに説明してもらいながらやった。今振り返ってみると、遊びに夢中になりすぎていて、まわりの、うまくなじんでいない子がいたとしても着付けなかったんじゃないかと反省している。あっという間に時間が過ぎ、バスに乗り込むときも園長先生が見送りをしてくれた。それから19:30の遅めの夕飯。後はフリータイムで、ギター引いてる人いたり語り合ってる人いたり大富豪してる人いたり寝てる人いたり。そんなわけで、あっという間の子供と交流DAY、終わり！

吉澤賢

9月11日(6日目)

ざっくりスケジュール

起床→朝ごはん→ありさ Birthday→9:00 出発→Bolu 市場(水牛マーケット)→お葬式参列
→昼食→サダン村着、自由時間→夕食→就寝

今日は僕にとって大切な大切な日になった。まずみんなで水牛マーケットへ行った。2日前に市場としてきた場所ともうちょっと奥のほうにある。マーケットの手前から牛や豚が運ばされていた。もちろん生きたまま。水牛は人に引っ張られても従順についていくけど、豚は持ち上げた瞬間泣き叫ぶケースが多い。この時豚は何を感じているんだろう。無意識に感情を探った。奥に進むと豚が生きたまま縛りくくられて安置している場所があった。おそらくここでお客さんが見て選ぶ場所一豚の市場なのだろう。豚が泣き叫ぶと蹴られて大人しくさせられる。たいていの豚が寝ていた。気持ちよさそうに寝る豚や苦しむ豚もいた。複雑な気持ちだ。これから殺され食べられるのだろう。次に向かったのは、トラジャコーヒの生産場所である。訪問のみになってしまって、実際にどういふところなのかを聞けずに終わったのが残念だった。日本人が居たという噂だがどこにいたのかもわからない。結局トラジャコーヒを買うだけの滞在になった。次は、いよいよトラジャでの一大イベント葬式を見学した。バスでは通れない狭い道だったので近いところから降りて徒歩で参列した。近づくとも異なる雰囲気が漂っていた。キャラクターの風船屋があちこちにあったり、子供たちがかけっこして遊んでいる傍ら葬式は厳かに執り行われていた。黒い服を着た人たちが御殿まで参列し、またもといた場所に帰っていくという場面であった。どうやらある一族が御殿で遺族から歓迎を受けている最中だったらしい。歓迎というスタイルや周りのお祝いムードの中でもやはり葬式はお別れの間である。涙を流す人がいた。マルセルの話と実際に今起こっていることを理解することが追いつけなかった。それほど日本人のお葬式の形とこのトラジャのお葬式の形が全くほど遠く違うことを実感した。トラジャの人は死んだあとの世界があることを信じている。このお葬式が正常に行われることによって死者はその死後の世界でも元気に生きていけるというのだ。しかしその代償として(代償というより死後の世界にたどりつけるため) いけにえを捧げる。この瞬間が清いということでお祝いムードに転じている。この考え方は非常に僕の中で刺激になった。このことを本気で信じきっているトラジャ人の思想は死後に対する整



理が全くと言っていいほど整えられ死に対して前向きにかんがえることができるからである。今日学んだことは一生の宝になる。心から感じた一日だった。

松嶋 秀太

9月12日(7日目)

ざっくりスケジュール

起床→朝食→9:00 出発→フェアウェルパーティーの買い出し→トラジャコーヒの事務所→
昼食→お葬式参列&お墓見学→サダン村着→豚の解体→19:00 フェアウェルパーティー

いよいよトラジャで過ごす最後の1日。トラジャでの生活に慣れて、日本では不便に思うこともここでは苦にならないし、時間が足りないといらいらすこともない。不便かもしれないけど快適に思えてきた。今日はまずボル市場でフェアウェルパーティーの材料の買い出し。そのあとケテケス村でお墓とお葬式見学。村の奥に入っていくと巨大な太鼓のようなお墓と等身大程の故人の人形があり、さらに奥に行くと、ずっと上の方まで続く階段が見えてきた。棺や骸骨がたくさん置かれていて、清々しくて神聖な印象を受けた。村の中央まで戻ってくると、お葬式が佳境にさしかかっていた。赤い布が村の外まで続いて、それを辿るように故人を乗せたトンコナン型の神輿が担がれていく。これはプヤへの道を表しているようだ。サダン村に帰ってくると、フェアウェルで食べる豚が殺されるところだった。生贄ではなく自分たちが食べるために殺されると思うと、お葬式とはまた別の思いがあった。その豚肉を解体してカレーとお好み焼き作り。骨が付いた肉を切り分けるのは予想以上に大変だった。料理も日本のお菓子も村の人には好評でほっとした。ここでりよんさんへ皆からの感謝のプレゼント。村長、マルセルさん、バルバラさんともプレゼントを渡し合い、みんなで集まってお酒を飲んだり、歌やダンスで盛り上がった。今日は盛りだくさんの1日で、気づくと皆より早く眠ってしまっていた。

岩崎薫

9月13日(8日目)

ざっくりスケジュール

起床→朝食→8:40 出発、サダン村とお別れ→バス移動→昼食→19:00 頃マカッサル到着
→各ホテルへ送ってもらい解散

トラジャ Ex の最終日を迎えた。昨夜のフェアウェルパーティーでは、久しぶりに日常の自分を捨てて子供たちと「本気のごっこ遊び」をしていたこともあり、心地良い疲れが感じられた。今振り返ってみると、真夜中に全力で「かめはめ波」と叫びながら子供に突進していく様は、いつもの僕を見ているひとからすれば想像もできない事だろうと思う。トラジャの環境は、僕を良い意味で解放させてくれたと思う。

起床してすぐに荷物を詰め始めるが、中々終わりが見えない。最終日ということもあって、片付けながらも実は色んな感情が込み上げていた、ということはここだけの秘密だ。

いつもの様にトラジャコーヒーを飲もうと外に出ると、空が青く、日本のそれとは比べ物にならない程高いところで雲がたなびいているのが見えた。そして外には村長(Jr.)の姿があった。

「おっす村長。」姿勢を低くして視線を合わせながら挨拶をすると、なんと向こうから駆け寄って来てくれた。今までの必死のアプローチが実を結んだのか、僕たちが今日帰ってしまうことを知っていたのかは解らないがとても懐いてくれた。彼が好意を示してくれると、帰ることが一層悲しくなり、センチメンタルな気分になった。インドネシアに来る前は、言語の壁をどう乗り越えていこうかと心配をしたが、そんなものはただの杞憂だった様だ。ひとしきり彼と戯れていると一つ驚く事が起こった。なんと、僕が村長と呼ぶと、彼が続けて「Sonchou」と呟いたのである。僕はある種の感動を覚えつつ、インドネシアで体験した数々の貴重な出来事をそっと思い返してみると、自然と笑みがこぼれた。「トラジャ Exに参加して良かった。」これは今流行のステマなどではなく、僕の心からの言葉である。

本当にお世話になった大好きなサダン村から、いよいよ帰らなければならない時間となってしまった。皆の顔を見まわすと、それぞれにサダン村の風景を目に焼き付けようとしているのが感じられた。

帰りのバスの中、そこでは DJ KIMUTATSU のラストライブが開かれていた。会場は満席、いつも通りの最高な選曲により、車内はしみりとしつつも暖かな雰囲気にも包まれていた。今回のバスは市場や孤児院に行くためのものではなく、日本に帰国するための移動手段の一つだ。夕方頃にはサダン村に帰り、元気な子供たちと戯れながら美味しい夕飯を待つということはない。始めは遠くから訝しげな表情で僕らのことを眺めていた子供たちも、今では自ら笑顔で走り寄ってくるまでになっていた。先にも触れたが、この Exに参加するためのアプリケーションには、言語の壁が存在する環境においての文化交流についての項目があった。思うに、今回の Ex でそれは可能だと証明されたと言える。

今ここで、榮口さんの「村へ帰ろう」という言葉を反芻してみる。この Exの中で、僕らは確かにこの表現を何度も使っていたと思う。いつかまた、このサダン村にあのメンバーで帰りましょう。これが僕の夢の一つで、最も楽しみにしていることの一つであるという事を、皆さんに報告します。

岩渕 将之

フリーエッセイ

トラジャ Ex.で感じたこと思ったことを参加者それぞれが文章に表現しました。

- 榮口徹哉—————キャッチボール
松尾咲穂—————私と異文化交流と I.S.A.
梶山有希子—————インドネシアとカメラ
郡山めぐみ—————時代と共に変わりゆくもの、変わらないもの
坂下佳穂—————トラジャご飯道中
下郡瑛里—————自然の一部として生きる～トラジャ Ex に参加して感じたこと～
鳥丸大貴—————世界最大のムスリム国家の実情
山内菜摘—————違う世界、忘れた世界
岩崎薫—————日本とインドネシアの違い
木村竜也—————人間っていいな
松嶋秀太—————宗教という論理
森本悠生—————トラジャで考えたこと
中瀬有紀—————わたしのなつやすみ(2012)
柳瀬梨央—————TONGKONAN
吉澤賢—————発展の方向性
山本梨世—————世界で人と繋がること。その意味。
山本彩代—————血の通ったトラジャの文化に触れて
池田早希—————インドネシアで感じた宗教観
石井亜理沙—————日本って…
佐武里砂—————01 から 02 への繋がり。そして、これから。
岩渕将之—————トラジャの宗教備忘録

キャッチボール

榮口徹哉

私がトラジャ Ex.に参加しようと思った理由。その1つに、「言葉の通じない交流ができる」というものがあつた。今では大抵の諸外国に行けば英語を話せば通じるが、インドネシアのトラジャ地方のように山奥の地に行けば必ずしもそうではない。英語もほとんど通じず、互いの母国語をスラスラ話せるわけでもない状況での交流というものに、非常に興味があり私は参加を決意した。

「言葉を介さない交流」と聞けば、真っ先に思い浮かべるのはジェスチャーだろう。もちろん、このジェスチャーは非常に効果的である。自分が思っていること、やりたいことなどを動きを通して、言葉なしでも十分に伝えることができる。あるいは紙に絵を描く、写真を見せるなどの方法もある。

しかし、私の中で最も心に残る言葉を使わない交流は上記のものではなく、なんと“キャッチボール”であつた。私は日本からグローブとボールを持って行った。現地の人々にとって馴染みのないグローブの、まずは使い方から見せ、その後一球一球確かめるようにボールを投げる。何度かそれを繰り返すうち立派なキャッチボールができるようになった。私たちが滞在させてもらったサダン村の村長と、村の子ども達と、訪れた小学校の学生と。キャッチボールの中で言葉は必要なかった。ボールが手元から離れ、帰ってくる間に少しずつ相手との心の距離が近くなっていくように感じられた。

スポーツなど身体を動かすことは、交流をする上で言語と同じぐらいの力を持つことが、今回のキャッチボールによって身をもって実感し知ることができた。白球を追いかける楽しさはまさに万国共通であつた。

写真は、私がプレゼントしたグローブをつけた村長の姿である。このグローブをつけた村長と、将来のトラジャ Ex 参加者がまたキャッチボールをできる日が来ることを切に願って。

Fin.



私と異文化交流と I.S.A.

松尾咲穂

インドネシアスラウェシ島、未知の場所であったその場所も今では私の思い出の場所。こうやって人との出逢いを通して自分の思い出の場所が増えていくのはとても素敵なことだなあと思う。それを教えてくれたのは I.S.A.。そして今回はそんな I.S.A.生活最後の夏休みということもあってすごく思いを込めてこの Ex.に参加することを決めた。キーワードは2つ、『繋ぐ』と『成長』。「本当の意味での異文化交流ができた」という去年の参加者の言葉を聞き、4年間で成長した自分自身で改めて交流について追及したい、そして 01 の参加者の想いを繋げたいと思ったのがきっかけであった。

そんな私にとってこのインドネシアトラジャ Ex.は本当にかけがえのない貴重な経験となった。まず一番に異文化を感じたのがこのプログラムの醍醐味でもあるトラジャ地方のお葬式である。まるでお祭りのようで、運動会のアナウンスのような大音量の放送と豚の鳴き声が響きわたっている場内は何とも言えない雰囲気だった。でもそう感じたのは私がどういう気持ちでお葬式に臨んでいいかわかっていなかったからなのだろうなとも思う。喜ぶべきなのか、悲しむべきなのか、気持ちの持って行き方がわからず、それが複雑な心境に繋がったのだろう。現地の人から話を聞くことで、お葬式は死者が生きた証であり現世に別れを告げ、プヤ(死後の世界)に行っても幸せに生活するための儀式であるということにはわかった。けれどそれを本当に理解するというのは、お葬式に臨む気持ちまで理解することではないか、と感じた。人の気持ちを理解することは難しい、つまり異文化理解は難しい。しかし私たちはその文化を受け入れることはできると思う。私はトラジャの文化を違和感なく受け入れることができた。それは I.S.A.に様々な人がいるということを受け入れるのと同じような感覚であったと思う。

また人との交流でいうと、私は今回今までで一番自然体での交流ができたと思っている。それは文化の違いを越えた人と人との交流である。「求めよ、さらば与えられん」。自ら積極的に心を開いていけば、相手も開いてくれる。この Ex.で強く感じたことである。マカッサルの学生も、サダン村の人も子供たちもみんな私たちの気持ちを知りたいと歩み寄って来てくれた、そして私も今まで以上に自分から心を開いていった。だからこそ自然な交流ができたのだと思う。

文化の違いを受け入れて、人と人とお互いに気持ちを理解していこうと歩み寄っていく、それが異文化交流ではないかと感じ考えることができた。そんな Ex.であった。

本当に参加することができてよかったと心から思う。そして私にこんな貴重な経験をさせてくれ、私を成長させてくれた I.S.A.に出逢えてよかった。ありがとう。やっぱり大好き。

最後に、素敵なトラジャ Ex.がこれからも続いていくことを願って。

インドネシアとカメラ

梶山有希子

こんにちは、こんばんは。フリーエッセイって何を書けばいいのでしょうか。
文章能力がないので思ったことをつらつらつらと書きます。
なので気軽に適当に読んでくれるとありがたいです。

私は写真が好きです。撮るのが大好きです。PCにデーターを移すとき、鬱になるぐらい大量に撮ってしまいます。量があればいいとは思いませんが、撮りたい瞬間がいっぱいあったのだから仕方がない。

今回のトラジャ Ex.では本当に多くの人と関わりがありました。ガイド、通訳してくれたマルセル、バルバラさん、ハサヌディン大学の皆、サダン村の方々、小学校・孤児院の子供たち…。何人ぐらいと聞かれると、そりやもういっぱい。その各個人との関わりで Ex.参加者の表情が少しずつ変わっていくのを見るのがすごく楽しかった。初めて来る土地で日本語をしゃべってくれる人がいる時の安心感。英語で頑張って会話が通じた時の喜び。インドネシア語を教えてもらってカタコトで話すけどやっぱり気恥ずかしい感じ。本当にいろんな表情があって楽しかったです。いろんな表情を見せてくれた参加者と、私たちにとても親切にして下さった現地の方々に本当に感謝しています。

すごく話は変わりますが、インドネシアで気になったことがひとつ。それはカメラ（しかも一眼レフ）を持っている人が非常に多いこと。日本に比べて持っている人が多くて、日本に帰ってから調べました。今、世界の市場がアジアに移りつつあることはご存知の方が多いと思います。日本でも、デジタル一眼レフや女子カメラといったカメラが流行っています。その波に乗ってカメラメーカーもアジアに進出をしているそうです。あの有名な富士フイルムも昨年の11月にインドネシアに現地法人を設立し、事業拡大を図っています。インドネシアでは現在、カメラ、情報技術（IT）、オフィス用品、AV機器の各市場の伸び率が高くなっているそう。これからもっと良いカメラを持つ人が増えていきそうです。

（く、悔しい…ッ）

インドネシアでは宗教や死生観、そしてトンコナン！ばかりが目立つと思いますが、それ以外の現地の日常に目を向けるのも楽しいと思います。私はこの Ex.で、街を見て、今どんなことが起きているのかを確かめるいい機会になりました。（やはり自分が大学で勉強していることが気になるのですが…）また何年後かに訪れて、今年との変化を見れるといいな、と思います。

時代と共に変わりゆくもの、変わらないもの

郡山めぐみ

時代の変化に伴い、変わっていくものがあれば何十年も何百年も前からほとんど形を変えずに残っているものもある。一方でインドネシアの秘境の地であったタナトラジャにおいて外国人と出会ったのは 1980 年前後と言われ、伝統的な葬式や死生観に目をつけた観光業界が 20 年ほど前から参入し、急速にグローバル化が進んでいることもあり、「伝統」なるものが観光客に向けて変化しつつある面も感じる事ができた。今回のトラジャ Ex.02 ではそのように文化や生活などについての変容性や不変性について考える機会が多くあった。

今回幸運にもお葬式には 2 度参列することができたが、1 度目はお葬式の真只中、2 度目はお葬式が始まる前の 3~5 日前（お通夜に近い位置づけだと思ってもらえれば良いが、ここではより雰囲気に近い表現として以降「前夜祭」と表記）である。伝統が観光客に開かれることで変容されつつあると気づいたのはその前夜祭である。前夜祭でもお葬式でも柩の周りを囲うように黒い服を来た親族たちが手をつなぎ、インドネシア語はさっぱりわからない私たちにとっては呪文とも取れるような歌を歌ってステップを踏みながら回っていた。後でマルセル（通訳のため行程の間ずっとついてくれていた現地コーディネーターの男性）に聞くとその歌は故人が生まれてから死ぬまでにどのような人に囲まれてどのようなことを成し遂げたという生き様を歌ったものらしく、そのため死者一人一人歌が異なっているらしい。私はマルセルの説明に耳を傾けながら、祖父のお葬式に参列した 6 歳の頃の事を思い返していた。私の祖父は私が幼い頃になくなったこともあり、思い出も数えるほどしかないし、祖父がどのような人であったかはほとんど知らない。しかしこのトラジャのお葬式では少なくとも 2 千人、多ければ 1 万人を超える親戚（これは、トラジャの親戚観であり、何代も何代も遡って血のつながりを感じるため、このような大世帯となる）が集まり故人を送り出す。当然だがその故人のことをよく知らない親戚だってくるだろう。しかしその集まった人も故人の歌を聞き、このような立派な人が親戚にはいたのだと誇りに思うだろうし、その故人ありきで今の自分があると思うと血のつながりに感慨も覚えるであろうと推測していた。家族のつながりが希薄になっているとされる日本と対照的だなあなんて考えながらもその歌に耳を傾けていると、一人の女性が私たちの方を見た。言葉は分からなかったが輪の中に入るか、と明るく誘ってきたのである。日本人からすれば故人をしのぶための集まりに部外者が入るのは不謹慎な気がする。もちろん私は首を横にふり断ったがオランダ人の観光客が喜んで輪の中に入っていった。よく見ると欧米系の観光客が柩の周りを回る輪の中に混じっている。確かにトラジャのお葬式は知る人ぞ知る観光行事である。しかし、観光客も入れて一緒に柩を回るその様子には違和感をおぼえた。

また、私たちはタナトラジャのサダン村において宿泊していたのであるが村の人はほとんどの人がスマートフォンを持っていたし時折衛生受信機が設置してある家も見かけた。村の家はすべてトンコナンという伝統家屋であり、このトンコナンの形態は 300~400 年ほど前から変わっていないのであり、100 年後も変わらずにあるだろうと言っていた。外見的にはどの家もほぼ同じなのであるが、内装的な点に関して言えば差はあった。きっと 10 年もしない内にパソコンが全家庭に普及しているのだろうな、とか電気などのインフラ（インドネシアはともかく停電が多い）や浄水技術（川でお風呂に入り洗濯した水も流すため革が汚い）も発展しているのだろうかなど色々と思像を楽しんでいた。10 年後、20 年後、そして 30 年後もこの村に帰ってきて発展の過程をこの目で確かめたいと心の底から思った。トラジャ人はインドネシアの中でも非常に優秀な民族らしく、医者や教師、国家公務員になる人が非常に多い。キャリア志向を持ち、世界に触れて広い視野を持つ若者も多い（お葬式には一生かかって稼がねばならないほどの大金がかかるから現金を稼がざるを得ないのである）。世界に飛び出し彼らの内で価値観が形成されていくのは素晴らしいと感じつつも、彼らの「伝統文化」「死生観」「家族観」「村の共同体」などには「変わって欲しくない」と願っている自分に気づいた。文化は時代と共に変わりゆくものであるし、それを止める権限は私にはない。頭では分かっていたはずだが、夜中に何人かのメンバーで星空の下でトラジャの死生観について語り合いながら、それらを観光資源として保存したい対象と見なしている自分に戸惑いを覚えた瞬間でもあった。

まだまだ書きたいことはあるが、何はともあれトラジャ Ex.に参加して本当に良かった。この 8 日間、人間の生死に真剣に向き合った。人の暖かさに涙した。いい意味でカルチャーショックを受けた。先進国である日本の淋しさも感じることもできたし、やはり日本が大好きだと実感もした。そして何より、愛すべき最高のメンバー 20 人に出会えた。みんな、本当にありがとう。

03,04 とこのトラジャ Ex.が続いていくことを切に願う。

トラジャご飯道中

坂下佳穂

今回のトラジャ Ex.は沢山の刺激を受けました。葬式の人々の熱気、伝統と文明の共存、豚や水牛のマーケット、五感を通してダイレクトに伝わる情報に押しつぶされるかと思うこともありました。ここは異国なのだと、実感する時が何度もありました。このフリーエッセイはそんなシリアス成分をちょっと脇にずらし、ただただ“食”についてまったくもって自己満足的に語りたいであります。

まずこのトラジャ Ex.は、全てのご飯がおいしかったという前提を引かせていただきたい

と思います。でも全てをここで語れないので泣く泣く厳選します(´ ; ㇿ ;)ノ

マカッサルで一番初めの食事ではナシゴレンがなんとまっかっか！驚いていると大学生の子がこれはトマトの色なんだよーと教えてくれました。味はちょっと濃い目。ちなみにミーゴレンはあんかけっぽかった。添え物に出たえびせんは旅程中沢山出ましたが、サクサクした触感ながらかすかに甘く、スープともご飯ともあってしまう。尊敬。(*・ω・)

次にマカッサル市内の店のテールスープ。水牛の内臓のスープということですが生臭みなどは全くなく。ねぎなどの数種の野菜も入っていて味は濃いですが、コクがでていて、さっぱりと飲みやすい。ここにもちと化した米の塊を浸して飲みます。味の濃いスープと味はちと薄いモチが合わさった時、まるで質量のあるスープを飲んでいる気になりました。

トラジャ中のご飯はタナ・トラジャの方々が作ってくれました。朝と夜ごはんです。夜にお米を炊いて白米をだし、朝にその残ったお米でナシゴレンとか作って出すそうです。特に記憶に残ってるのがコーンのはいった天ぷらっぽい揚げ物。甘いコーンとちょっとしょっぱい？生地の合わせ技。そこにぱらっとしたご飯ととろっとした優しい味の野菜のあんかけが加われば最強でした。朝はバナナの揚げ物。バナナを挟んだホットサンドは朝の定番見たいですが美味しい。カリッとしたパンからあつあつとろとろバナナ最高だと思う。モチにヤシの実を黒砂糖に付け込んだ餡をくるませたものも、外もちっの中しやりしやり。

ここまで好き勝手に書いて申し訳ありません。このエッセイは全て私主点の為、参加者それぞれ感想は違うと思います。しかしインドネシア、このトラジャにおいて、口に合わなかったべられない、ということは殆どなかったと思います。それはあちら側の配慮や参加者の体質が大きな理由と思いますが、味覚が近いのではないかとも思います。食は世界どこでも重要なものです。そんな食に対する味覚をたった2週間かそこらでわかるはずもないだろう、とおっしゃられてはまあその通りなのですが。しかしおいしい！ものが似ていたら、食べることを大好き人間な私にとっては嬉しく、楽しく、幸せです。

おいしいと笑うと、村の人たちは笑ってくれました。ご飯のおいしさを共有する笑顔は、きっとどこでだって通じます。

とりあえず美味しいものは正義。

自然の一部として生きる～トラジャ Ex に参加して感じたこと～

下郡瑛里

今回わたしは念願のトラジャ Ex.02 参加することができました。この Ex.8 日間は、自分の人生において何にも代えられない、素晴らしい経験の連続でした。

Ex.に参加する前、「タナ・トラジャ」は、葬式がとても有名で、今でも水牛を葬式中に生贄すると聞き、「生」と「死」とはいったいどういうものなのか、その間には何か存在するのかなど、今までそれらについて、あまり深く考えることはなかったので、考える絶好

の機会ではないかと思っていました。そして幸運にも私たちは、Ex.中に葬式を見られることになりました。

当日、バスに揺られて葬式が執り行われる村まで行きました。到着すると、たくさんの人が行き交い、風船を売っている人もいて、まるでお祭りのような雰囲気です。大勢の観光客もいました。トラジャの葬式は、葬式に参列する人数や葬式が行われる期間の面においても日本と比べてかなり大規模です。親戚総出の葬式で、本当にたくさんの人々が出席します。また観光客のように全く故人とは関係のない人々もウェルカムなので、とても驚きました。葬式では、コーヒーや紅茶、お菓子などを振舞って頂きました。葬式の規模が大きければ大きいほど、死後も幸せだという言い伝えもあるそうです。どのくらいの規模の葬式を開くことができることを見せ、権力や財力を誇示しているとも思いました。

そして、水牛や豚が生贄になっている場面です。到着すると水牛はもうばっさり血が出て、動いていませんでした。それからしばらくして、豚を生贄する場面も見ました。心臓のあたりにナイフをさし、動かなくなってから丸焼きにします。もし日本でこのような場面に出くわしていたら、とてもショックを受けていた気がします。日本では「食」と「動物」はとても遠い存在になっていて、多くの人が牛や豚、鶏など毎日口にしている「肉」がどのようにして店に並んでいるか、あまり深く考えていないです。日本では「豚」は「動物」だから、殺したら「可哀そう」という感情の方が勝って、多くの人がショックを受けると思います。しかし、ここで目にした光景は想像しているよりもショッキングではありませんでした。どこか鮮やかで、尊い命が消えていった瞬間「これが生の美しさなのかもしれない。」と、ひとりで考えていました。

水牛や豚、鶏など私たち人間生きていく上で、食として私たちに恵みを与えてくれます。そんな恵みを与えてくれる動物たちの存在がトラジャではかなり近いので、もっと食事をとるときには感謝して食べなければと思いました。そして存在が近く、地産地消型、アニミズム文化なので、トラジャではそれぞれの生物がひとつのサイクルの「自然」として成り立っているなという印象を受けました。自然が豊かで、私たちも自然の一部だと感じることができました。今日の日本では、体験しにくいことですね。

本当に今回の Ex.に参加できて、いろいろ経験して、考えることができました。日本人メンバーを始め、マルセルさん、バルバラさん、運転手さん、ハサヌディン大学のみんな、サダン村の人たち、その他出会うことのできた人たち全員に感謝します。

世界最大のムスリム国家の実情

鳥丸大貴

どこに行ってもモスクがある。インドネシアという国は、世界最大規模のイスラム教徒人口を抱える、世界最大のイスラム教国家である。全人口約2億4000万人のうち、イ

スラム教徒が占める割合は約88%で、約2億人にもムスリムを抱えているという計算になる。つまり、イスラム教徒は、インドネシアという国において、圧倒的マジョリティであるといえる。それにも関わらず、この国には、他にも様々な宗教が確かに根付いている。勢力が偏っているにも関わらず、何故、このように複数の宗教の共存が成り立つのか。これが、本エッセイの主題である。

まず実際に今回の Ex. で私たちが訪れた地域がどうであったか、振り返ってみる。今回、私たちは、スラウェシ島南部の港湾都市マカッサルと、同じくスラウェシ島北部のタナトラジャ、この2つの都市を訪れた。

マカッサルにおいては、圧倒的にムスリムが多い。1 km 圏内に、5、6 個のモスクが存在する地域もあったほどである。港湾都市であるし、多くのムスリム商人が立寄り、イスラム教を伝えていったのではないかと思う。ちなみに、1602 年にオランダ東インド会社ができて以降、オランダ人が香辛料を狙って訪れるようになったが、彼らはあくまでビジネスの話しかしなかったために、彼らの信仰するカトリックが伝えられることはなかった。

一方で、タナトラジャにおいては、キリスト教を信仰する人が多い。彼らは何故、イスラム教を信仰するに至らなかったのだろうか。最大の理由は、イスラム教は豚を食べることを禁じている点である。本 Ex. の目玉の一つとして、トラジャ族の独特な死生観、宗教観が挙げられる。その中で、豚は、死者が天国へ行く道中における食料であるとされ、葬式においては多くの豚が殺され、食される。この点と、イスラム教の豚食禁止がそぐわなかったのが、タナトラジャにおいてイスラム教が信仰されない最大の理由である。

さて、ここで、本題について考えてみたい。インドネシアにおいては、イスラム教信者が圧倒的に多いにも関わらず、何故、他の宗教との共存が成立しているのだろうか。私は2つの要因が挙げられると思う。

第一に、地理的要因である。インドネシアは島嶼国家である。従って一口に国家と言っても、人々は、数ある島に分住しているのである。つまり、島嶼国家であるが故に、異教徒の住む地域との地理的断絶が起こる可能性が高く、異教に接することがあまりない。だから、争いも起こりにくいと考えられるのである。実際、マカッサルとタナトラジャも、同じ島にあるとは言え、距離的に遠く、山岳地帯による地理的隔りがある。

第二に、民族的要因である。インドネシアは、約300もの民族から成る多民族国家である。彼らは、それぞれ違った生活様式、言語を持つ。彼らの意思伝達をつなぎ止めているのは共通語としてのインドネシア語だ。そんな、全く異なる暮らし、価値観を持ち、異なる宗教を信じる彼らは、通常、それぞれで集まって暮らすので、日常的に異教とぶつかることは比較的少ない。

以上の理由から、インドネシアにおいては、多くの宗教が存在していながら、異なる宗教同士が接する機会が比較的少ない地域であり、争いにも発展しにくい故に、それらの宗教の共存が成立しているのではないかと考えられる。

ただし、その「共存」という事実が全てではなく、2002 年のバリ島爆弾テロや、20 世紀

末のボソ戦争のように、いわゆる宗教、宗派の違いを原因とした争いが起こったというのもまた事実である。

とはいえ、複数の宗教それぞれがしっかりと息づいているインドネシアという国は、個人的に、「異なるバックグラウンドを持つ者同士の共存」について考えさせられる、非常に興味深い国であった。

違う世界、忘れた世界

山内菜摘

マカッサル市ではムスリム女性のヒジャブがよく目につく。金曜のお昼に男性がいなくなり、1時間の祈りをする。自分とは違う異文化の世界。ただ、違和感はない。彼らが彼女らが当然に行っているから。それに反発しようなんて、エネルギーの無駄だ。なにより、こんなに仲良くなった彼らのすることだ、マイナスイメージなどない。

トラジャ地方のサダン村、お年寄りから赤ちゃんまで多くの年代の方と出会った。とりわけ輝いて見えたのは子どもたちだ。こんな小さい体からどれだけのパワーを放ってくるのか。訪問した小学校でバーゲンセールのおばちゃん以上にシャボン玉に殺到した子どもたちはむしろ恐怖だったが、それほどまでの力の源は「全身全霊」の言葉に尽きる。全力で遊び、全力で怒り、全力で吸収し、全力で放っているのだ。

そんな子どもや私たちの前に現れたのは、1頭の豚。村の男性が豚を殺す。子どもたちはおもしろそうに笑う。そこで私は違和感を覚えた。日本なら不謹慎だと叱られるような場面、インドネシアとの文化の違い？それもあるだろう。キラキラ輝く好奇心、私が忘れてしまったものをインドネシアの子どもたちは持っていた。違う世界を越え、自分が忘れた世界を思い出した。

世界の違いで争う人々がいる。自分の世界が正しいと信じすぎ、それゆえに他の世界を受け入れない人がある。ただ、待ってほしい。昔の自分はこんなものだったか。自分の世界の周りに柵を張り、中からぬくぬく外へいちゃもんつけていたか。自分のありったけのパワーでぶつかり、輝いていたでしょう？忘れてしまっただけなんだ。違うとを感じる世界はどこにでもある、何が違うの？どこから壁を作ってるの？フェアウェルで誰彼構わず踊ったとき、忘れた世界を思い出したような気がした。国際交流する上で必要なものは、全力で感じ全力で放つ自分なのだ。I.S.A.という国際交流を行うの団体の一員として、そんなことを考えられたこのプログラムがこれからも続くことを強く願う。

ありがとうインドネシアトラジャ Ex.

日本とインドネシアの違い

岩崎薫

インドネシアでの8日間。このトラジャExが私にとって初めてのEx，初めての海外だったこともあり、そこにあるもの全てが新鮮だった。ここではほんの一部だが、驚いたこと、感じたことを書きたいと思う。

まず私がインドネシアで最初に驚いたこと。それは飛行機の中からみたスラヴェシ島だった。寝起きのまま下を見ると、川なのか水田なのか、地上が水浸しのように見えたのが衝撃的だった。ご飯を食べる時になってやっと、あれは全部エビの養殖場だった事が分かった。

次にインドネシアの人たち。現地で会った人たちは皆、優しくて笑顔の似合う素敵な人ばかりだった。バスに乗って外を見ていると、道路脇にいる人や、車やバイクに乗っている人とよく目が合うが、笑い掛けてくれたり、手を振ってくれたり、身振り手振りで何かを伝えようとしている人や、バスの窓ガラス越しに話し掛けてくる人がたくさんいた。日本ではなかなかないことで初めは驚く場面もあったけど、長距離のバス移動も楽しく過ごすことができた。

そして一番印象に残っているのが宗教の存在だった。マカッサルではイスラム教の人がほとんどで、女の人には布で頭や首を隠している人が多かった。町のいたるところにモスクがあり、礼拝の時間になるとそれを知らせる音楽が流れてくる。宗教がそこでの生活の一部になっていて、新しい世界を見たような気持ちになった。

1日1日が朝から晩まで充実しっぱなしで、見たもの聞いたもの感じたこと全部、忘れないように書き留めて写真に収めておきたかった。でも、そうしている時間をもったいないような気がしたし、どれだけ書いても書ききれないほど中身の濃い毎日だった。

日本とインドネシアの違うところ。それは「全部」とも言えるだろうし、「何もかわらない」とも言えるかもしれない。違いは山のようにあるけれども、家があって、トイレがあって、お風呂に入って、ご飯を食べて、山があって、海があって…。当たり前だけど、生きるために毎日していることは日本人もインドネシア人も何も変わらない。その土地に長くいればいるほど、日本との違いは目に留まらなくなってくるし、よく観察しなければ見えてこなかった。私は、インドネシアで発見した違いを「違い」ではなく、「新しい形」ととらえていたことに気付いた。このことで、少しでも相手の文化を受け入れるという事ができていたのではないかと思った。当たりの事かもしれないけど、今回私が体感して得たものはとても大きかったと思う。

人間っていいな

木村 竜也

このタイトルを見たら分かる通り、この Ex. で感じたことはこんな感じです。

ハサヌディン大学の学生達には右も左も分からないマカッサルを案内してもらったり、プレゼントをもらったりと 2 日間お世話になりっぱなしでした。彼らにもっと恩返しができたら良かったな、と思うほど良くしてくれました。

そして、現地コーディネーターの方々この 8 日間本当につきっきりでお世話をしてくれ、一緒に笑い合ったり、観光スポットの説明をしてくれたり、誰かさんの誕生日ケーキを買ってくれたり、最後には参加者 21 人お揃いのサロンをプレゼントしてくれたり本当に最後まで一緒にいて楽しい人達でした。

後は、ファームステイをさせてくれたサダン村の人々。去年はほとんど言葉が通じないと聞いていたが、思ったよりも英語を話せる人が多く、そのおかげでコミュニケーションに特に支障ありませんでした。そして、なによりも明るく陽気な人柄だったので若干不安に思っていた部分もあったのですが、窮屈な思いもせずに良い思い出になりました。フェアウェルは本当に楽しかったしもう一度会いたいと思える人達でした。

最後はやはり一緒にいった参加者の皆ですね。大半が気心知れた人だったのが大きいかもしれませんが、8 日間ストレスなく過ごすことができたし、基本的に皆サプライズ好きなので、プレゼントや恩返しのことばかり考えてばかりで終始ニヤニヤでした。

それに、まだ 02 というのもあってか、皆体調にはすごく気をつけていました。体調崩した人がいれば皆全力で心配していたし。結局良い人ばかりだったんです。

この 8 日間で人のあったかさに触れ、最高の思い出と仲間を得ることができました。

この素晴らしい Ex. をぜひ来年、再来年と続けていってほしい。僕たち 21 人全員がそう思えた 8 日間だったと思います。

宗教という論理

松嶋 秀太

日本人は宗教に無関心だといわれる。今回のトラジャ Ex の経験によってこのことを大きく感じさせられた。今回、僕がこのトラジャに参加した理由はこの不思議な宗教観、死生観を間近で感じることであった。しかし、これは単なる好奇心であり「そこからどう考察するか」というのはあまり深く考えずに当日を迎えた。

まず、お墓を最初に実際に見たのはレモ村のお墓である。ここではタウタウ人形が連立させてあることで有名な場所である。そこでたまたま隣の外国人を案内していたガイドが言っていたことをちょっと聞いた。「神話は論理的ではないように見えるが、実に論理的な

ことなのだ…。」この時点でこの言葉を聞いたとき全く意味が分からなかった。この瞬間思ったことは、トラジャと日本の宗教に対する感じ方に差があることである。このことを実感せざるを得なかった。

葬式当日を迎えたこの日は、忘れもしない。いくつもの風船、はしゃぐ子供たちその傍ら厳かにしかし華やかに行われるトラジャの葬式。何もかもが日本の葬式とは異なり、異様な雰囲気を放っていた。いや、異様だと感じたのは僕らだけなのかもしれない。

すでに水牛が殺されてしまっていて殺される瞬間は見るができなかったが、豚を殺す一部始終を見た。まず殺される前の豚たちを囲み斉唱する。これは死者への弁当を作っている最中だという。つまり殺す前の豚、生きたままの豚の状態で調理する。斉唱の内容は死者への人生を語りかけているとバルバラが言っていた。一つ一つの作業の意味合いを考えると、これらの行動はすべて死者のために捧げられているものだとわかる。豚や水牛や竹やあらゆるものに対し祈りをささげ死者に貢ぐ。アニミズムの典型的な形をぼくたちに色鮮やかに見せつけられた。こうして、殺された水牛や豚の魂は、死者の乗り物・お弁当として代わる。死後の世界で元気に暮らせるための必需品がそろうわけだ。この葬式が完全に終了すると死者は天国という新しい世界で生き続けられると信じられている。ここで重要なのがこの事象を本気で信じているという点である。このことを信じていれば死者は単純に無に還るというわけではなく新しい世界で生きていると考えるということができ死というライフイベントを前向きに考えることができる。ぼくはハッとした。宗教や神話とはこういうぼくらの理解を超えて論理的に説明できないものへの対処をうまく整理できるように作られたものなのかもしれない。ここでガイドさんが言っていた「宗教は論理的」という内容も言ってることは理解できた。日本人にはこの考え方はあまり適していないだろう。なぜならトラジャのように宗教の影響が日常生活にあちこちに点在していないからだ。日本に宗教と日常生活の接点はあまりない。このことから宗教の神秘的な考え方と距離が生まれてしまっている。だから日本での葬式はただ「悲しい」だけになってしまっているのではないか。形だけの葬式は立ち別れとほぼ同格で、気持ちの整理ができない。いつまでも引きずってしまうのではないか。葬式だけではない。生きること、死ぬこと、罪、罰、自然への感謝。宗教に染まりきれなかった僕らの世界はすべてのものが事務的にものとして道具として考えられているのではないか。トラジャは葬式で殺す瞬間も式典の内容の一つに入る。ここには確かに豚への感謝は必ずあるはずである。

日本人に熱心に宗教を考えさせるのは難しい。だからこそ、トラジャの考え方はより神秘的で謎のように見える。しかし、自然との感謝、死者への追悼の念、死生観などこれらのことを日常生活に取り込むうえで宗教は実に論理的で普遍的なものとなりえるのだ。

トラジャで考えたこと

森本悠生

私がこのトラジャ Ex.02 に参加して感じたこと。

死生観というより、食べ物・食事に関して思うことがありました。

死ぬために生きるって不思議な感覚だと思っていました。葬式のときに儀式として豚や水牛を大量に殺すこともあるがそれに対してどうなんだ？と思っている部分もありました。

ですが、実際にトラジャの葬式に参列して、その現場を目の当たりにすると、考えることは、自分の食に対する感謝の薄さだったように感じます。

儀式で殺された水牛や豚は参列した親戚などに料理として振る舞われるそうです。日本の葬式でも参列した親戚には何かしらの食事を振る舞うのと大差ない、むしろトラジャの方が、生き物の死ぬ瞬間を目の当たりにし、それを料理として食べる。そういうことはより食に対して考える機会を多くもてるのではないのでしょうか。

またその葬式ですが、日本で行われるものと全然違います。トラジャの方が亡くなれば、親戚が100人単位で集まり、マカッサルから約8時間もかけて葬式のためにトラジャを訪れます。そして死者をあの世に送り届けるための乗り物として水牛を、お弁当として豚を、時には数百頭を生け贄として捧げます。それは亡くなられた方の家族がお金を貯めて購入し、もしお金が足りず買えなかったときはお金をためるまで、死者を病人として一緒に生活し、何年掛かっても葬式を行うそうです。

私はそれがとても家族を大事にしているように感じました。それが文化として当たり前のことだったのかも知れませんが、でもシステムとしてもすごく家族や親戚を大事にできる環境にあるのではないのでしょうか。

もっと色々考えたことはあったのですがここには書ききれそうにないのでこのぐらいで。本当にいろんなことを考えるきっかけとなったトラジャ Ex.02 でした。

わたしのなつやすみ(2012)

中瀬有紀

みなさん、ほんまにありがとうございます

ハサヌディン大学の学生との交流、孤児院訪問、サダン村でのステイ、毎日が非日常で、充実していて、楽しくて、この8日間とEx.のメンバーは私にとってかけがえのない一生の宝物です。

楽しい、と言うのは、単に楽しかった、というだけの意味ではありません。”死ぬために生きる”と呼ばれるトラジャ族のお葬式に参列し、生贄として捧げられる多くの豚と水牛をみたり、お墓を訪問したり、フェアウェルで豚を殺していただいたり、生と死に触れ

る機会が多いトラジャ EX に参加して、生死に関する自分の価値観は大きく変化しました。死生観だけではないです。発展途上国、日本、宗教、生き方、自分の将来、etc、いろいろなことに思考を巡らし、そしてみんなとそれについて語り合い、自分の視界は大きく広がりました。それがめっちゃ楽しかったんです。

ビフォーとアフターへ一緒に行ったりお、ありがとう。ほんまおもろかった。最後 2 日間瀕死状態だった私を、自分もしんどいはずなのに、いつも気遣ってくれた彼女には頭が上がりません(^_-)-☆またどっかに行きたいなあ
最高の夏だった。と胸を張って言います。感謝の気持ちでいっぱいです。みなさんほんまにありがとうございます。これからもいっぱい喋りたいなあ(^u^)

TONGKONAN

柳瀬梨央

トラジャ地方は、トンコナンと呼ばれる棟持柱のある船形屋根の高床式の建物があり、割竹を幾層にも葺いた巨大な舟型をしています。屋根と、周囲に彩色彫刻を全面に施した外壁をもち、前柱には儀礼のたびに犠牲に供した一番大きい水牛の角が飾りつけられ、その数の多さで家格が分かります。数の多いところでは、前の柱だけでなく左右の柱と家の周りまで水牛の角が飾られていました。外壁の模様にも意味があり、その家の身分（王族、貴族、平民、奴隷）が模様をあらわしているようで、トンコナンの模様を見るだけでその家の身分が分かるそうです。トラジャでは、男性は女性より身分が高くなければ結婚できないという風習が今でも残っており、どんなに裕福になっても祖先が奴隷ならば身分は奴隷のままなので、平民などの女性の親に結婚を反対されるそうです。また、身分は死んでからも棺桶の種類で区別されます。王族はトンコナン型で模様が多い棺桶、貴族はトンコナン型で模様が少ない棺桶、平民は水牛型、奴隷は豚型と分かれていました。すべて木で作られていました。生まれてから死ぬまで、そして死んでからも身分というものが影響して、結婚や仕事などに影響することは悲しいことだなと思いました。

トンコナンは大きなものから小さいもの普通の住宅の上に建っていたり、さまざまなトンコナンがありました。宿泊したトンコナンでは、底冷えはするけど、広くて天井も高く想像していたよりも快適でした。

トンコナンはトラジャ族にとって生活の一部になっていました。祖先から受け継ぎ、現在の家族が守り、未来の家族に繋げる。祖先からのものを大切にされていて素敵だなと思いました。

発展の方向性

吉澤賢

10代最後の夏休み。これからどんどん自分の好きに使える時間が減っていくのだろう。そしてどんどん感受性も少なくなっていく。じゃあ何か自分で行動しなきゃダメだろう！そんな思いで参加したこのトラジャEx.02 予想通り、いろいろなことを感じれたと思う。ただ、まだそれをうまく言葉にすることは難しい。拙い文章になってしまうと思うが、読んでいただければ幸いだ。

僕は今までに海外に行ったのは一度きりで、行き先は中国。そしてそれはお国が援助してくれたもので、なかなか vip の対応がされていた気がする。だが、最近、やっぱり一般の人たちと深く関わりたいと思うようになっていた。そんな思いを抱えながらいざ、インドネシアへ。そこに行って最も感じたことは、人々がみんな笑顔で、幸せそうだったということだ。現地の人たちもよく話しかけてきてくれた。一方で日本を見てみるとどうだろう。人々に笑顔はあるだろうか。そして、自分のことだけを考えているキライがないだろうか。

なんでこれほどの違いが出てくるのだろう。たしかにインドネシアは発展途上国で将来への意欲に燃えているとはいえ、みんな携帯電話を持っていたし、テレビもカラーだ。山奥のトラジャ地方でさえ、電気、水道が普及していて、十分に発展しているといえる。日本はむしろ便利すぎる気がする。僕は、価値観、主に死生観の違いが笑顔の量などに関係しているのではないと思う。日本人は、主に自分が現世において後でいい思いができるようにとりあえず今がんばろうとする。家族がいれば、子供のためとかもあるけど、事実今は結婚をしない人がふえているようだ。それは自分のためだけに生活をする人が増えているということでもあるだろう。インドネシア人は違う。彼らは、「死んだ後生きる」ために生活しているのだ。これは、自分のためというのものもあるが、家族が楽に死後の世界に行けるようにするために、というのが大きい。そういう、「相手のために」という姿勢が自分に自信をくれて、日々が充実していくのではないか。日本人の笑顔は自分のための生活に疲れてしまったから消えた……

上のような論を述べたわけだが、その根底には結局日本的な考え方がある。それはインドネシア人的な考え方とは違うだろうから、こんな文章を書く意味なんてあるのだろうか。とも考えたが、文章にしてみることでより深く考えられるようになったかもしれない。

最後になったが、トラジャ Ex01 の報告書を見て、インドネシア人を少し批判的な角度から見るのも必要かなと思い、意識していた(日本人にも問題点があるように、インドネシア人にも問題点があって当然だと思う)のだが、なぜだろう、やはりいい点だけを見てしまっていた気がする。今はまだその理由がよく分からない。けど、批判的な視点は、トラジャ Ex03 でもあっていいんじゃないかなって思う。より深くインドネシア人のことを知るためにも。

長文、失礼しました。総じて、トラジャ Ex、よい機会だった。考えさせられた。こんな素晴らしいものを一緒に作り上げていった 02 メンバー、最高だー！！

世界で人と繋がること。その意味。

山本梨世

Ex.の醍醐味。それは、現地の人々の生活を垣間見られること。そして、現地の人々と交流できること。

インドネシア・トラジャ Ex.は今回が 2 回目の開催で、まだ内容も確定しきっていない状態であったため、去年の参加者からの引き継がれた Ex.の内容や反省を踏まえて、02 メンバー自らで考え、つくりあげることとなった。

そして、去年の参加者から引き継がれた大きな課題のひとつが「現地の方々との交流をもっと充実させること」。02 メンバーの私達もそこに重点をおいて、Ex.内容の改善を試みた。結果、マカッサル市・ハサヌディン大学で日本語を勉強する大学生と 2 日間まるまる交流することができ、小学校や孤児院でも一緒に体を動かして十分に遊ぶ時間を設けられ、サダン村の方々とも夜一緒に時間を過ごすことができた。合計すると、150 人近くのインドネシア人に会ったのではないかと思う。

さて、I.S.A.が大きな理念としている「世界平和達成への貢献」。

I.S.A.に所属している会員の中でも、「I.S.A.は本当に世界平和達成に貢献していると思う？」という議論は常にあちらこちらで行われているように思う。私の答えは Yes だ。

平和とは何か。その答えは人それぞれ違うだろうが、私は、まず、戦争や憎しみや争いがないことだと私は思う。日本は現在、アイスランド・ニュージーランドに次ぐ、世界で 3 番目に平和な国だと言われている。つい 70 年ほど前には戦争の最前線にたっていた国がだ。戦争は何故おきていたのだろうか。また、今後も日本が戦争に踏み出すことはあるのだろうか。

概して戦争は国家間（国家のトップ間）のしがらみによって起きる。今後、日本が戦争に踏み出そうとする可能性はゼロとは言い切れないが、民主主義が浸透している今、70 年前に比べて反対する人の数は圧倒的に多いのではないだろうかとは私は考える。

すごく主観的ではあるが、私は自分の命をはってでも、私は友達がいる国、私が実際に行ったことがある国の人々を大量に殺害することには絶対反対する。また、戦争に限らず、実際に去年震災が起きた時に痛感したことだが、世界の友達も日本という国に何か悪いことがおきた時には他人事ではなく、心配してくれる。

このように個人と個人の繋がりが、国家と国家の関係をよくし、世界を平和な方向に導くという考えは理想に聞こえるかもしれないが、実際にあると私は信じている。

「一生トモダチ。」そう思い合える仲間を世界中に作ること。これが一人の人間として自分

のため、周りのため、また、世界のためにできる小さく大きな行動なのではないだろうか。

血の通ったトラジャの文化に触れて

山本彩代

最近の私は、食べ物を漁るホームレスを見かけることが多いせいか「金がなくても文化があれば少しは人間らしく生きていけるんじゃないかな？」なんてぼんやり思っていた。また過去には人間関係という人間関係を絶ち、本気で死のうと思った時期があった。だから「死ぬために生きる」トラジャの文化に強烈に惹かれ、そんなそんなハチャメチャな文化をやってる人らの「常識・感覚」が知りたいと思ってこの TorajaEx.02 に参加した。

どんな新しい感覚が得られるかと思ったらどっこい。感じたことは良い意味で「日常以上の日常」だった。どういうことかと言うと、トラジャ文化はハチャメチャではないということだ。

トラジャ人の多くは古来と同じように山奥に住んで自然とともに生きている。いつだったかサダン村から出かけるとき、見送ってくれた女性の横には豚が縛られて置いてあった。「これ晩ご飯だからね〜♪」ということだったらしい。サダン村最終日のフェアウェルパーティーのための豚肉を解体しているときには村の子供達が豚の臓物をもってきやあきやあと走り回っていたのだ。

村の人にとって豚の解体は日常だったのである。グロいものは勘弁と思っていた私だったが、驚くほど抵抗なく葬式で解体を見ることが出来た。鳴き声に少し心が痛んで落ち込んでも、その後すぐに豚肉を「おいしー♡」と喜んで食べた。私も生き物だな、と感じて力が抜けた瞬間である。

最終的に葬式で感じたのは、トラジャの文化は「死ぬために生きる」のではないということだ。

葬式の場合は鳴き叫ぶ豚、解体された水牛・豚、死者、人間がいた。人間は参列者・運営者・ビデオカメラの業者・観光客・役人(豚の税金のため)・あそびまわる子供達・風船屋さんである。まさにカオス。ただただ異様な雰囲気包まれていた。あまりのエネルギーに私は死者と生存者、人間と動物、身内と部外者の境目がわからなくなった。唯一わかったのは、ここでは死は生の一部かもしれないということだった。

生のエネルギーが満ちあふれた場所(動物の大量解体によるもの)をひとりの人間のために用意するということは、死者ひとりひとりの命を尊んでる証拠のように感じた。尊んだ上でその人が関わった生活・関わった人々を大事にしているのだ。視点が日本の「喪に服す」など後ろ向きではなく、未来を見ている。

トラジャの文化は堅苦しい伝統のものというよりも(神話に基づく)生活の一部という要素が強い。死者に乗り物とお弁当を渡すために生贄をささげる。

人々は近代の製品を用いながら当たり前のように葬式を勧めていた。司会進行のおじいさんがマイクで喋り、豚にスプレーで印を書き、豚は大きなガスバーナーで焼かれていたのには拍子抜けしてしまった。葬儀屋に任せず自分たちで運営することを通して親戚や近所の人々とのつながりを保ち、さらには深めることが出来る。つまり葬式は村の人々の生活の結果であり、彼らと他の地域のトラジャ人をつなぎ「ひとつのトラジャ民族」足らしめているのである。

そんなトラジャ文化が外の人から魅力的に写ることは、トラジャの人にとって生活・祖先・自己のルーツについての肯定に繋がる。その自己肯定感が普段の包まれるような余裕のある雰囲気を生み出しているのではないか。それゆえに他文化・離れた場所に住むこと・キリスト教など他宗教を受け入れること・観光客に葬式の参加をさせるなどの「排除をせずに芯を保っていられる」のではないか。

この誇りを持っているという状態に私は憧れる。私には自分の生活の中に日本文化はあまりそんなに存在していない。もちろん祖父と博物館に通うなど文化には触れているけど、私を取り囲むあらゆる年代のひとつのことを共有できていないのではない。博物館だと固定化されたモノをみるが多くて現実味や温かみがない。好きだけど、あくまで違う世界。

文化は生活・人間関係の結果であり始まりでもある。トラジャのようにアミニズム要素があると自然環境までもつないでゆける。人と文化が密接に関わっていることで生活の変化に合わせて文化が失われる危険性もあるだろう。研究のための「保護・保存」の面ではあまりよくないことだと思う。だけどだからこそトラジャの文化にはいつもリアリティがある。背伸びをしない。細かいルールよりもそこにいる人たちのつながりや価値観など文字には書き残せない雰囲気そのものが最も価値がある文化なのだ。

豊かさとはこういうことではないのか？

生活の中にエネルギーのわき上がりや。心の底からの落ち着きがあって。

トラジャの文化があって人間関係が成立しているといってもいい。卵が先か鶏が先かはわからない。いずれにしろあの集団そのものに心臓があって生きているようだった。遠くにいても帰って来るのはそこが核・還る場所だからだろう。日常以上の日常と最初に表現したのはこのことが言いたかったからだ。

人間関係や生活の結果であり始まり。何度もこのことを書いてきたけれど、文化は金持ちの娯楽・または趣味になるものと捉えていた私にはこの発見ができたことがとても大きかった。EXでホームステイ・観光・子供たちと交流ができたから気づけたのだと思う。心を癒し大切なこと教えてくれたトラジャのすべてのひと・ものにありがとうと言いたい。

『インドネシアで感じた宗教観』

池田早希

私たちはこのトラジャ Ex.でマカッサル、トラジャに滞在しました。そこでそれぞれの宗教観を身近に感じることができ、とても興味深く感じました。そのことを題材にフリーエッセイを書きたいと思います。インドネシアはイスラム教徒が88%を占め、世界で最もイスラム教徒の人口が多い国です。その数は1億7千万を超えるといえます。私たちが行ったスラウェシ島にはマカッサル族・ブギス族・マンダル族・トラジャ族と4つの民族が存在し、トラジャ族のみキリスト教を信仰し他の3つの部族のほとんどがイスラム教を信仰しているそうです。今回のトラジャ Ex.02では01ではなかったハサヌディン大学日本文化学科専攻の生徒たちとの交流が2日間、新しくありました。生徒のほとんどがイスラム教徒で、女子のほとんどは洋服で肌を見せず、ニカブをかぶっていました。男子は割と普通に半袖などを着ていました。Ex.の1日目は大学内での交流で、お昼になると男子は昼食を済ませた後、お祈りのために姿を消していました。帰ってきたときに聞くと、学部ごとにお祈りをする場所があるそうです。お祈りは起床時(5時ごろ)・学校に行く前・お昼・夕方・寝る前と一日に5回行うそうです。ハサヌディン大学では9月はすでに授業が始まっていました。長期休みの期間は6月～9月までと12月～1月までの2回だそうです。そしてこの6月～9月の長期期間中にだいたいらマダーン(断食)の時期とかぶらせているようでした。そのことを聞いて私はイスラム教徒同士のカップルは彼氏はデート中にも抜けてお祈りに行くのかどうか気になり質問してみたところ、そういった場合は人にもよるが夕方などにまとめてお祈りを行うのだとか。また女性が常にかぶっているニカブも人によっては時と場合により外すときもあるそうで、私が仲良くなった子は日本のコスプレをしたときの写真とダンスの大会の時の写真でかぶっていませんでした。他にも宗教の違いでおもしろいと感じたことは私がお酒を買いたいと話したら「お酒!?そんな飲まないからわかんない」とびっくりされ、本当にイスラム教徒はお酒を飲まないのだなと思いました。また日本も少ないですが男女間のスキンシップが少ないなと感じました。そしてトラジャではキリスト教の宗教観を学べることが出来ました。トラジャ滞在中はよく豚肉を食べたことや、十字架の持ち物を身に付けている人をよく見かけ同じ島内でも生活の中でこんなに違うのだなと思いました。またトラジャ族のお葬式はキリスト教の教えに沿ってないのではと疑問に思うと思います。それを私自身も聞いてみたところ、トラジャ族では結婚式、お葬式、収穫祭などで行ったお祭りの場合はトラジャ独自の伝統に従って行うそうで、トラジャ族は独自の文化とキリスト教徒を生活の中にうまく融合して文化を形成しているのだそうです。実際に棺には十字架が書かれていたりしました。今回のEx.を通してぼんやりと神の存在を信じている私と、神の教えに忠実に従いながら生活しているひとたちと関わることができ本当に勉強になりました。私の家は浄土真宗の教えで葬儀は行いますが私自身は無宗教です。ですが自分の葬儀方法や先祖の宗教については知っておきたいなと思い

ました。また日本人になぜ無宗教が多いのか、日本の神道についても詳しくしりたいなど思いました。2種類の宗教を信仰している人たちと交流できたトラジャ Ex.。まさに異文化体験をしたい人におすすめのプログラムだと思います。

日本って…

石井亜理沙

日本人であることで損していることがあるのではないか、このトラジャ Ex.中に初めていただいた感情だ。私が一番そう感じたのは時間に対する感覚だ。日本にいと時間にルーズなことは決して許されない。8日間、インドネシアでキラキラ（だいたい）タイムを過ごせたことは日本で暮らしていく上で絶対に体験できないことだろう。公共機関の時間、友人との待ち合わせの時間。きっちりしていたほうがいいに決まっている、そう思っていた。しかし Ex.が終わるとキラキラいいじゃん、と思うようになった。締め切り、集合時間、バイトなど毎日時間に追われてすごす日本での生活。それが当たり前だと思っていた。ここインドネシアに来て当たり前ではないことに気づかされた。私が一番それを実感したのは Ex.一日目のハサヌディン大学の学生との交流のときだった。学校の中を見学させてもらっていたときのことだ。そのときは他の学生はお昼休みだった。お昼休み何時に終わるの。という質問に返ってきた答えは、う～ん、一時くらい！というもの。キラキラ精神素晴らしい。もしキラキラ～と過ごすこの国に生まれて生活していたらどうなっているだろう。今の私ならイラっとすることもこの国に生まれていたらなくてよいかもしれない。日本人の私としては絶対に味わえない感覚があるだろうし、味わわなくてよい感覚を今私はしているのではないかと思う。帰国してキラキラタイムで過ごすことは絶対にできないので本当に貴重な体験、感覚を味わうことができた。そしてもう一つ。子どもの笑顔。自然一杯の中で、親以外の人の優しさにも触れて育つことのできる子ども達。サダン村での小学校訪問のとき、子ども達は何をするにも素敵な笑顔で答えてくれた。私たちの持っていったお土産を興味津々で遊んでくれた。ある女の子は一回折った折り紙を綺麗に広げて、次にまたその折り紙で違うものを折り始めた。小さな幸せに気づくことができるから、あんなに素晴らしい笑顔が作れるのだろう。日本は幸せすぎて、小さな幸せになかなか気が付けなくなってしまうと思う。トイレに紙を流せること、毎日温かいお風呂に入れること、災害がない限り停電しないこと。日本では小さなことではあるが、本当はすごいことなのだ。幸せなことなのだ。こんな幸せな環境に生きていることをトラジャ Ex.に参加しなければ感じることはできなかっただろう。海外を知ると日本のことが好きになる、いつもそう思うのだが、今回のインドネシアでの生活はまったく逆のことを思った。日本人であるから、日本で生活しているから損していることもあるんだ、それを気づかせてくれたトラジャ Ex.02。この素晴らしい Ex.が 03、04 と続いていくことを祈りたい。

01から02への繋がり。そして、これから。

佐武里砂

今回のトラジャEx. でお世話になった人は、去年の第1回に引継ぎ、ハサヌディン大学日本語学科の学生、サダン村の方々、孤児院の小・中学生、そして私達をずっとサポートし続けてくれたガイドのマルセルとバーバラさんです。私達は今年度のトラジャExに参加する際に去年行われた第1回のEXの反省を勉強会やfacebookのグループページで共有してきました。大きな反省で挙げられていた3つの問題で、一つ目は英語が全く通じないこと。二つ目はトラジャの人々は思った以上にシャイな人が多く、簡単な言葉（インドネシア語や英語）での交流も難しかったこと。三つ目に、交流する時間が単発で終わるなどあまりにも短すぎたことでした。

このような問題があったので現地の人々と交流することは01では困難だったと聞いています。そこで私達は、交流する企画を自分達で作りあげ、現地コーディネーターの阿部さんと団長のりよさんを通じて1から作り上げていき、トラジャEx. 02を作りあげていきました。

ただ、企画を作り上げていくだけでなく、現地の方々との交流する際には一人ひとりが自分なりに色々工夫して交流していました。例えをいうと、事前に印刷していた「指差し会話帳」を使ってあいさつや会話をしたり一緒にスポーツや遊びをしたりと各々が工夫して積極的に交流してきました。ガイドのマルセルとバーバラさんも私達と現地の子供達に混じってゲームをしたり、私達が現地の子達が話している言葉がわからなければ日本語通訳してくれたりと協力的にかかわってくれたことに対して、01の反省がこのEx. にかかわっている人たちに活かされてるのだと思うと『繋がり』って本当に大事なんだなと感じました。

今回のEx. は去年創立されて2年目。去年の反省を活かすことに徹し、このトラジャEx. 02開催に備えました。結果、去年を越えるくらいの素晴らしいトラジャEx. になったと思います。しかし、まだまだ解決しなければいけない問題もあります。それでも、十年二十年とトラジャEx. を私達I. S. A. 会員が継続し、日本側でもトラジャ側でも難しい問題を改善する努力を惜しまずに、開催していくことが大切ではないかと思います。

これからトラジャ Ex.の参加を考えている I.S.A.会員の皆さんにも今までのトラジャ Ex.の軌跡を振り返り、ずっと長く続いていく Ex.にしていって欲しいと心から願います。

トラジャの宗教備忘録

岩渕将之

皆さんこんにちは、ぶっだです。ここでは、トラジャ族の人々の伝統的な宗教観、そして死生観について個人的な考察を交えながらつらつらと綴っていこうかと思います。タイトルにあるようにこれは備忘録であり、完全に俺得と言われるものです。しかし、これを読み返すことによって、皆さんのトラジャ族の宗教についての知識の再確認、そしてより一層興味を持っていただく事を一応の目的としています。僕らがトラジャの地で実際に目にした葬送儀式に焦点をあてていく予定です。歴史的背景を書くとも長くなってしまうので省略しますので、興味がある人は別途調べる事をお勧めします。では、ゆるりとお付き合い下さい。

【死ぬために生きている】という言葉があります。これはトラジャの地にキリスト教が布教される前の古くからの伝統宗教、そして死生観を端的に表した言葉であると解されます。トラジャの伝統宗教では、「死」とは断片的な出来事、つまり生命の終焉ではなく、プヤと呼ばれる所謂楽園・魂の地(英訳:Paradise)に向うための通過点であると考えられています。トラジャ族の人々は、葬送儀式を終えることで正式な「死」が訪れると考えており、肉体的な死を迎えると、死体は香油を塗られ、吸湿性を持つ生地(布)で巻かれ家に安置されます。葬式までのこの期間、死者の魂は村の中を一時的に彷徨っていて、葬式で正式な「死」が訪れるまでの待ち時間であると考えられています。

トラジャ族の人々はプヤに死者の魂を運ぶ事を最も重要であると捉えていて、それを行うための儀式である葬式は壮大に、【生きるよりも死ぬ方がお金がかかる】と言われる程の贅をつくして行われます。その例として、トラジャ族の葬式では、水牛と豚が生贄として屠殺される場面を見ることができます。それは、水牛が亡くなった方の魂の乗り物、そして豚がその水牛をプヤまで導いていくと考えられているからです。亡くなった方の財力や権力に応じて生贄の頭数の多さ、そして質の高さ(白い水牛など)が異なります。そのため、葬式の式場では長い間、屠殺される生贄の断末魔が鳴りやみません。

日本人である僕からすると、このトラジャ族の伝統的で独特な葬儀は、まさに「異文化」と呼べるものでした。トラジャ族の文化を知るために、今回はトラジャと密接に関わりのある宗教を切り口として異文化理解を努めました。短い期間でしたが、トラジャで過ごす中で貴重な文化の片鱗に触れる事ができ、このトラジャ Ex、とても満足 of いくものとなりました。



メンバー紹介

トラジャ Ex. 02 参加のゆかいな仲間たち 21 人を紹介します！



まずは我らが団長から！

団長の次からは名前順で紹介していきます😊



トラジャ Ex. 02 団長
大阪支部 関西大学 4年

山本梨世

山本 フルーティ 梨世

ひとこと😊

トラジャ EX02 メンバー最高!! *
一生繋がっていたい大切な仲間
です。ありがとう。

メンバーより

- * アジアの国のお姫様
- * わたしの憧れりよよんさん
- * 迷言「ZAI か KIMUTATSU」
- * フルーティ
- * 団長〜りよよんさんならどこまでも付いていきます!!
- * われらが団長。何から何までやってもらって、愛を感じました
- * 距離が縮まった気がします! 物理的に! w
- * 麗しの団長。歌もダンスも気配りも上手。トラジャ Ex 飛躍の立役者。
- * 「トマトが呼んでる! トマト食べなきゃ私はどうなると思う?! りよよんでなくなるの!」
- * かわいい自由人
- * カッコよくて頼れる Cute な団長です! 感謝感激
- * 美人! インドネシアの人にモテモテでした
- * 本当にお世話になりました。ただ未だに50で2は疑ってます笑
- * 我らが誇りの団長☆美しさとみんな想いの情熱に世界中がメロメロです♥
- * 皆の団長!! この人あってのトラジャ Ex、ありがとうございました!!!
- * 最高の団長でした♥りよよんさん大好きですー!!!!
- * 最高の団長! 楽しい、可愛い、ドリアンしかけてくる。うん、りよよん大好き。
- * 我らの団長 海外慣れパネェ 頼りにしていました
- * 団長!! 告白された人数…!!!!
- * THE ショッキングピンク。頼れる団長さまー!

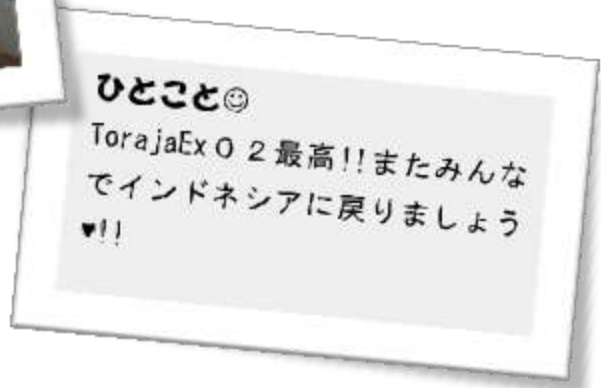




トラジャ Ex. 02 財務
九州支部 北九州市立大学 2年

池田早希

池田 カンチョー 早希



メンバーより

- * 笑い上戸
- * 九州愛パネェ
- * 人気者度がうらやましかったw
- * 九州支部、ホントに仲いいなあって思いました。
- * 自撮り名人! そしておしゃれ!
- * カンチョーされすぎ。笑 こどもみたいにはしゃぐさきだいすきだー♡
- * 笑顔が赤ちゃんばりの可愛さ! ありさと2こ1!
- * 「なんかあ、めっちゃ子供にカンチョーされるんですけどぉー(*´益`*)ニヤ」
- * 優しさ溢れる九州女子! 野グソの場所探ししたねーw
- * どこにでも行く感じ
- * しっかりしているけどおちゃめで絵がうまい! よく起こしてくれてありがとw
- * 変態。二の腕フェチ。
- * サプライズのパスルの絵うますぎ! 後、かんちょー
- * 人の二の腕ばっか触るんじゃありませんw
- * 九州の☆?
- * 見てて常にすごく楽しそうでなんかずっとよいなーと思っとりました
- * 工学部男子にモテモテ♡ 便秘部w
- * かんちょう隊長、なぜか子供に狙われてました
- * あなたの模写の才能には驚かされました。気の利く素敵女子。
- * ずっと一緒にいたなあ〜好きよww





トラジャ Ex. 02 ML 係
九州支部 北九州市立大学 2年

石井亜理沙

石井 コッコ 亜理沙

ひとこと☺

20 歳になりました！！

☆ンパーより

*引き笑いマダム

*照れてる姿が可愛かった///

*20になりました

*きたなー。きたなー。きたなー(笑)

*ピュアなのかと思いや実は…って感じすごいいおもしろかった★

*もんもんを使っているであろう最後の碧やったんやけどな。そうか、うちだけか、、、

*めっさ引き笑いやん！w めっさかわええやん！

引き笑い美人。 Birthday Girl!! さきと2こ1！

*私が全く人見知りしなかったオープンな女の子！

*子ども大好きな面倒見のいいお姉ちゃん。乙女な一面も・・・？芝生の音楽会是一生忘れないぜ！！

*子ども大好きキュートガール^^気遣い上手なできる子です！Happy Birthday☆

*基本的に下ネタかショッピングw ありさはトラジャでもありさだったw

*ぶったの愛人疑惑(写真より)

*ケーキに顔押し付けすぎてごめんなさい

*誕生日パーティーの時の鼻にクリーム、あの絵は好きです

*トラジャで20歳を迎えた happy girl**

*この人、毎朝4時に引き笑い起こして皆を起こすんです。え？それは鶏だって？うそーん、ありさの引き笑い、鶏の声と一緒にやん！

*子供と全力で戯れるときの亜理紗さん、輝いてました

*365日一緒にいる気がする(笑)

*九州の天使





トラジャ Ex. 02 勉強会
神戸支部 甲南大学 2年

岩崎薫

岩崎 ファブリース かおる

ひとこと☺
いろんな事を見て、感じて、充実
した8日間でした^^みんな大
好き!!

メンバーより

- * マイナスイオン発生器
- * かおるんるんさん
- * 完全に完璧なる癒し
- * 包容力
- * 「救急車がピーポーピーポー。わお、メニーピーポー。ああ滑ったー！」
- * 癒し系 寝顔がかわいかったです♡
- * ほんわかお姉さん、子供と接するときの笑顔が素敵!!
- * 癒しです、そのマイペースさ、川では子供にもてもて♡
- * 流れ星リベンジしたーい><
- * 物を落とす系女子w 一緒にいるときは本当にいつも癒されてます
- * 癒し系であり、アクティブ系女子
- * ひとまわりたくましくなった!? まったり癒し^^
- * 薫の周りにはゆっくり時間が流れてた^^
- * なんか途中らへんしもごんに見え始めたよ^^
- * 控えめだけど、見ててこっちまで微笑んでしまうような良い笑顔
- * アヒルがツボすぎて・・・w 一生ネタにするw
- * おしとやかだけども密かにロック好きなパワフルウーマン
- * 天使2号
- * メンバー1女性らしい。家庭的。あなたの心は美しい。
- * 笑顔を見てるとこっちまで穏やかになるかわいい娘。ちょいちょいドジっこ。





トラジャ Ex. 02 副団長
東京支部 立教大学 1年

岩渕将之

岩渕 ひっぴ 将之

ひとこと😊

子供の笑顔に惚れました、
ぶっだです。

メンバーより

- * 村長のお気に入り♡
- * 村長 Jr の友達 *
- * 仕草がいちち男前
- * ぶっだは神です
- * 気の利く後輩！年下には思えなかった！
- * ボロブドゥール遺跡にいっぱい家族がいました。そう彼はブッダ。
- * どこにいても子供たちに大人気！！
- * 神様仏様ぶっださま！（`・ω・`）
- * 今日も便秘です、、、隊長（><）w
- * こどもと遊んで負けてくれる心の広いお方
- * ただのイケメン。ギター屋さん。
- * サロンのシャツを着た姿はまさに夜のひと w 交流めっちゃたのしんでたねー！
- * よくメモを取っていたのを目撃！楽しそうに子供たちと遊んでいたのが印象的！！
- * きめこまやかな気配りに心惹かれた人多数。腰フリダンスは天下一！笑
- * 安定オーラを放つミュージシャンw 隠し子あり←
- * 英国紳士
- * 彼の素敵にパーマがかかった髪に後ろから強い光を当てます。すると！なんということでしょう。彼の髪はまるでミーゴレンのよう！
- * ぶっだ、唯一の一年男子仲間として仲良くしてくれて thank you
- * 蝶の谷仲間。あの経験は、実際に行った者同士でなければ共有し得ない。ありがとう
- * 安定のテンションやのにめっちゃおもしろい！なむあみだ〜





トラジャ Ex. 02 チケット係
神戸支部 関西学院大学 4年

榮口徹哉

(榮口) ゴーリキー (徹哉)

ひとこと☺

トラジャは刺激と自由に溢れた
時間でした。メンバーのみんなは
娘息子のように可愛かった
ぜ！！

メンバーより

- * 力持ちで優しいお父さん
- * なんかはじける若さでしたw
- * トラジャメンバーの頼れる存在！
- * パパ。うん、ただのパパ。
- * みんなをあったかく包んでくれました*
- * 我らの愛しのお父さん♥包容力ありすぎです!w
- * お父さん!! 途中からトラジャ族にしか見えませんでした
- * 頼れるパパ的存在でした。いつも熱かったっす★
- * パパ
- * 外を歩けば現地人。メンバーの中ではパパさん。どこでも順応万能マン！
- * みんなのお父さん！本当に頼りになりました！
- * パピー
- * パパと言われる理由がなんとなくわかりましたw
- * Right here Right now! (Burn!) ぶったぎってくるぜ Get the fire! の人
- * 皆のお父さんでありながら、最も現地の人に近かった榮口さん
- * ばば
- * お、お兄ちゃん…？
- * 人の気持ちと未来を考え、一歩先に行動する優しく強いお父さん。
- * パパであり、戦場の看護婦であり、現地民。
- * しっかり者。徹さんについていけばとりあえず大丈夫。





トラジャ Ex. 02 勉強会
神戸支部 甲南大学 3年

梶山有希子

梶山 ンゴ 有希子

ひとこと☺

皆の笑顔がまぶしすぎて写真撮りすぎました、どうもありがとう。

メンバーより

- * カメラマンみたいでした!(^^)!
- * サロンがハイセンス!!
- * カメラ girl
- * ゆきこさん
- * かじかじかじー! 気配り上手すぎるわ! 好きじゃ!
- * 平気な顔して怖いこと言うてる... おそろしや。
- * だいすき!
- * いつも一眼レフで美しい写真を撮りまわってくれていました w
- * カメラセンス分けてほしいです(> <)
- * つちのこさん
- * いっつも写真撮ってくれてありがとうございました!!
- * しっかり者の照れ屋さん。可愛いカメラマン。
- * 「有希子って呼ぶなああああ! 照れるじゃねーか!」(*´д`*)」
- * そっと見守る姿はカメラマンの域をこえた
- * 撮るか撮られるかの攻防を繰り返す戦場カメラマン
- * かわいいみんなのカメラマン♥夜に飛び跳ねるカレー魔女w
- * キャメラマン!
- * 保護者仲間。写真たくさんありがとうね
- * 孤高のカメラマン。バスの一番後ろでは数センチ浮いてました。
- * ただの照れるとかわいい人





トラジャ Ex. 02 チケット係
神戸支部 甲南大学 2年

木村竜也

木村 シャック 竜也

ひとこと😊

アゴ以外をお願いします

メンバーより

- * スピーカー常備
- * アングリーバーードッ!!
- * いかついようでやさしい
- * ギャップというよりオカンかッ!
- * 大学の食堂で大音量でスピーカーで音楽鳴らしちゃう、飛んだ DQN 野郎だぜ★と思いきや、優しく繊細で周りがよく見えるただのいい奴。
- * 我らの音楽番長。そしてオカン。かなり手広くいろんなこと知ってます。
- * 東南アジアに来て変わらぬキレキャラ、でもどりにゃん♡
- * スピーカーを担いだ歌のお兄さん
- * シャくれ
- * 選曲イイネ! えくぼステキなムードメーカー。時に腰弱しw
- * 赤
- * 1番健康に詳しいのに1番体壊してたw音楽係ありがとう!
- * どりにゃん! お兄さん系だけといじりがいのあるきむきむ。
- * 申し訳ないですが、あごが一番印象に残ってるかもしれないっす笑
- * スピーカー。有線の人
- * 抜群の類! バスの中が退屈じゃなかったのはキムタツのおかげ!
- * やくざ気質のムードメーカー!! 「みんなやるで～」の頼れるしゃがれ声が大好き。
- * 二の腕ちょーだい。
- * 皆しゃくとか書きそうやけど。君がいなければバスは絶対に面白くなかった。本当にありがとう
- * 後の世にまで語り継がれる伝説の兄貴 DJ





トラジャ Ex. 02 Facebook 係
神戸支部 関西学院大学 3年

郡山めぐみ

郡山 アウトサイダー めぐみ

ひとこと😊

死生観や家族間にこんなに思いを
馳せた8日間、もう一生ない！勉強
になりました★全ての出会いと最
高の仲間たちに心から感謝★

ズンパーより

- * 元気∞ 盛り上げ隊長
- * めぐ化、しましたw
- * ”キラキラ” 少女☆
- * あうとさいだー。むしろアウト
- * 伝説のバクダン発言娘。センター1。
- * めぐの明るさあってのトラジャー★トンコナーン★〇うと〇イダー！
- * つかみどころがないけどしっかりしてて頼りになりました><
- * アウトサイダーだけど頼りにしてます
- * 週4勤務おつかれさまです！！
- * しっかりしてて優しくて素敵で、アグレッシブですw夜のトークが印象的★
- * いつも元気！かと思えばちゃんと充電するときはするんですね。
- * 安定の郡山クオリティー（アウトサイダー的な意味で）、騒ぎの中心点①
- * アウトサイダー
- * 高らかなテンションで今日も元気にお外でトンコナン〜♪
- * 知らなかった夜の顔を知る事ができましたww
- * 真面目な話ができるおこちゃま(笑)
- * アウトサイダー
- * 面倒見のいい、ハイテンションお姉さん
- * 独特なワールドを展開する皆のアウトサイダー-!!
- * The 破天荒！笑 美脚。 Night Life と Day Life のGAP!!笑





トラジャ Ex. 02 勉強会
神戸支部 神戸松蔭女子学院大学 3年

坂下佳穂

坂下 Power 佳穂



☆ンバーより

- * ももんが?・・・w
- * 写真に映らないシアキャラ
- * 仕草が Cute♡
- * にゃんこ。癒しパワー絶大。*
- * 某娘
- * かわいい子猫ちゃんのようにほんわかしてました!
- * 年上だけどとっても可愛かったです! けどやっぱり先輩でした!
- * あちこちうろうろする動物
- * 人懐っこくて、よく抱きついてきてくれます ^^
- * 名前、ひらがなじゃないんですね! 榮口家のペットさん。
- * 猫みたいだなと思ってけど、たればんだにも似てる気がする…。
- * じつは一番現地人っぽくなっていたのではないかと個人的には思っている
- * ぎゅっぎゅー♡かわいい、かわいいです♡照れるともっとかわいい♡
- * ちびっこキャラだが、かなりのしっかり者。締めるとこ締めてくれます。
- * 癒されすぎます(*´ω`*) ペットにほしいです…♡
- * 妹かほさん、色々語れそうな気がする!!
- * かわいくて時に厳しいペットちゃん♡3人のおじさん布教者w
- * お墓! (*´Д`)ハ7ハ7 遺跡! (\*´Д`)ハ7ハ7 子供~! (∴;°;Д;°∴)ハ7ハ7ハ7
- * かわいいおねえちゃんです
- * ちっちゃい人! すばしっこい w





トラジャ Ex. 02 広報
京都支部 同志社女子大学 3年

佐武里砂

佐武 マルセル 里砂

ひとこと☺

トラジャという場所に会わせて
くれたトラジャにありがとう*

メンバーより

- * マルセルと仲良し♡
- * かよわいけどたくましい！
- * ザ・自由人
- * いつのまにかいない
- * ゴーイングマイウェイって感じで何にも囚われない感じです！
- * マルセルの髪を結ぶ勇気、私にはありません！
- * マルセルのご利益にあやからせてください
- * どぴんく。
- * ザ☆小動物。ほわんとしてるが意外と頑固な一面も！笑
- * 唯一マルセルを手なずけた女、りさ。こやつ、得体が知れぬ。
- * けっこうがちで常に体調を心配していました
- * マルセルとの絡み最高でした(´^`)w
- * マイワールドの持ち主!!佐武マルセル里砂さん
- * マルセルとできてた。:) 笑 心優しい妹。
- * クールだけど優しい大人の女性
- * マルセルさんへのなつき度No1☆ほわほわ系少女。温かくして寝なさい！
- * 常にテンションが程よく低くて、元気な方とのバランスが絶妙でした
- * マルセル大好き 日本は潰さないでください…
- * リス子
- * かわいいりさにゃん。隠し撮り王。





トラジャ Ex. 02 文化紹介
神戸支部 甲南大学 3年

下郡瑛里

下郡 スティック 瑛里

ひとこと😊

みなさん本当にありがとう
(*^*) 感謝感激

メンバーより

* わあ！

* 抑揚の練習

* 新感覚ゆるふわ系女子

* しもごん's ワールドは世界をかえる。

* ダンサー 名司会者w

* 今日もふわふわにやにやの天然少女～\^^／

* ほんわかボンバー

* 時々「ん！！？」ってなるけど、責任感があって頼りになる先輩^^

* ほんわか。天然。ただし会話は疲れる

* しもごんさんの笑顔、癒されます^^ ダンスキレがありました！

* しもごんさん天使

* いつもニコニコしていて優しいお姉さん♥

* しもごんワールド全開!! 日記が面白い(興味深いってこと)

* 声アンドロイド、動きはダイナミック! ほわほわしもごんだいしゅき♥

* 独自のワールドを持ちすぎな彼女。ほんわか笑顔に癒されました。

* ゆるふわかと思ったら、なんじゃいその腰の動き! また教えて☆

* 笑顔が最高に可愛い。ダンスのかっこよさと普段のふわふわさのギャップ萌え。

* stick reader * ダンス班リーダーお疲れ様です！

* 下郡ワールドはインドネシアでも健在でした

* わあ~~すごい~~嬉しい~~~楽しい~~。語彙~? あるよ~? ゴンゴン





トラジャ Ex. 02 副団長
神戸支部 関西学院大学 3年

鳥丸大貴

鳥丸 モンモン 大貴

ひとつこと☺
What the crazy awesome
members we are !! thank you
all guys !!

メンバーより

- * 王子様
- * 実は頼りになるおにいさん
- * もっと踊ろうか ^ ^ ♪
- * カレーにうるさい笛が吹けない人
- * モンモン野郎。なりふり構わずひつつきモンモン。けがらわしい★
- * たいきさんと、サングラスと笛とサロン。
- * 改めて…やっぱり万国共通イケメンだった。
- * 下ネタ大魔神。論理的でスタイル抜群なイケメン。
- * 頼れるお兄ちゃん！ けど度々Sな感じでしたw
- * ひつつきもんもんに好かれる意外と日光に弱いお兄さんw口笛ww
- * サロンをまとうと王族
- * インドネシア女子にモテモテ♡
- * ただのイケメン。ただし後ろを好む(二重の意味で)
- * ひつつきモンモンが帰国後の今でも頭から離れません。
- * 長身のイケメンでスタイル抜群って反則だと思うんですけど。。
- * サングラスがよくお似合いですね(・ω・)!
- * サロンを巻いたら石油王かどっかの貴族。
- * 自由人2号
- * もんもんお兄ちゃん！いけめそなのに…笑
- * 憧れの兄貴!!インドネシアでのモテ度は群を抜くであろう





トラジャ Ex. 02 財務
神戸支部 神戸大学 1年

中瀬有紀

中瀬 カメムシグリーン 有紀

ひとこと☺

みんな大好き

✂ンパーより

- * 眠り姫♡
- * スーパーマイペース眠り姫
- * 川から流れてくる眠り姫☆
- * 樹海ガール
- * よく寝る。よく寝る。そして、よく寝る！
- * よくバスで寝ていた 喋ると癒しオーラ全開です^^ けどS気質が...
- * マイペース眠り姫。色々話せて楽しかった。フルートの錆ちゃんを取りやー
- * 軸ぶれへんなあ 見た目との GAPNo. 1!
- * 笛が似合う女
- * ゆきりん「ちゃんさん、1月から支部会行きます～」ちゃん「支部会 12月で終わりだから」
- * かわいい眠り姫。体育座りでもつついウトウトしちゃいます。
- * かわいい? 違う、美しい? 違う、華奢? 違う、それら全部? そう、それ!
- * ゆったりキャラがめちゃトラジャに合ってた! なんだか癖になーる魅力♡
- * 天使3号
- * 眠り姫。バスで隣に座ればもう誰もがイチコロ♡
- * 白い! 細い! 可愛い! インドネシア人男子から絶大な人気。
- * もう敬語のせいでいくら Rp たまってると思ってるんだ(´ω´)!!w
- * 関西の眠り姫。場所と体勢は彼女に関係ないようだ
- * 眠り姫
- * サロンを一番着こなしてたねー。現地人の着こなし!





トラジャ Ex. 02 報告書
神戸支部 甲南大学 4年

松尾咲穂

松尾 エロティシズム 咲穂

ひとこと😊

かけがえのない思い出たくさん
のトラジャに感謝。みんな大好き
ー！いっぱいありがとう♡

メンバーより

- * ぽんつたいちょー
- * いつもニコニコお母さん *
- * 隊長！ついていきます！
- * いつも優しいパンツ隊長！！
- * 一段とかわいかったです～ぽえ～
- * 松尾”エロティシズム”咲穂パンツ隊長
- * 優しさと広い心でお母さんの存在です！ママ～
- * なかなか特徴的なしゃべり方がチャーミングな姉さん。
- * インドネシアでモテモテ！笑顔が素敵な元気印のお姉さん。みんなの元気の源！
- * 1にパンツ、2にパンツ、34がなくて5にパンツ！いじられ王
- * パンツ隊長！！欲求不満系女子。
- * さっぽさんと一緒にいたら癒されます^^安心します^^やさしすぎます^^
- * 皆のパンツ隊長!!気配りで右に出る人はいないだろう
- * みんなを暖かく見守りながらのさっぽさんの突っ込み…大好きです♡
- * 頼れるお姉さんです！安心感ある
- * 新たなかわいい一面にきゅんきゅんでした♡
- * エロ部長？エロティシズム部長？忘れた！けどそんな感じ！笑
- * 「Hello☆ 2012年9月〇日。今日も元気にパンツ隊長のパンツチェック入りまーす！」
- * マミー
- * 世界最高峰の優しさと包容力。大好き。[参考] エロティシズム/日記 笑





トラジャ Ex. 02 パスポート係
神戸支部 甲南大学 2年

松嶋秀太

松嶋 ポイズン 秀太

ひとこと☺

うんこです

ズンパーより

- * ”自由” を motto にしてそう
- * 現地果物マスター
- * 自由さにとアイドルさに脱帽
- * その可愛さはりよよんを超えた！
- * 現地の人に大人気。サロンの忍者巻が似合う人
- * 可愛さ分けて。(笑) またしゅーたの恋バナ聞きたい♡
- * ダンスがはじめててアイドルみたい！
- * おしゃれな男性アイドル、自由な流浪人。
- * ゆるふわ現地スタイルに最も近かったしゅーちゃんさん
- * 女の私より可愛い！ いろんなフルーツ食べてたね～
- * ミステリアス！ みんなのアイドル！ でも心は熱い
- * お洒落と自由と真面目と論理の共存。人とは違う道を行く魅力的な人。
- * 名言「世の中は詐欺です」。きらめくアイドルポイズン松嶋！ 将来はお城に住むよ！
- * ハサヌティン大学の女の子たちに大人気でした☆
- * ダンスで全部持ってったな。本当に輝きまくってました
- * 「人数点呼！・・・18. 19. 20・・・誰かいない！あ、しゅーたは？！」
- * 彼を語るにはこれしかない。ファンタスティック！
- * ぶらり旅大好きな不思議少年。イジるときに本領発揮しますw
- * 自由人1号
- * しゅーちゃんわーるどの住人





トラジャ Ex. 02 副団長
神戸支部 甲南大学 2年

森本悠生

森本 ぶりっ子ミーゴレン 悠生

ひとこと☺

本当に色んなことを考えること
ができるExでした！
トラジャ02最高！！

メンバーより

- * なんかひたしら食べてた。
- * 恋する乙メンみーくん。
- * 副団長お疲れ様！
- * スタンダード
- * みーくんはやっぱりちゃらかった。
- * わが妹ー☆w せっつ！^^☆w
- * いじられればいいと思う
- * 3回目のEx~w次はどこでかぶるでしょうねw
- * 「せんせえ！みーごれんがもうありません！みーくんが全部飲み干しました！」
- * りお審判の補佐 むしろ実況中継者
- * ナシゴレン大好きな寂しがり屋の子猫ちゃんw 副隊長です。
- * 自由奔放
- * どんな女の子もその手にかかればいちころさ！
- * バスの中で彼と隣になると、そこはカラオケBOXに。オンオフ激しい弟くん。
- * いつでもどこでもちゃらえもん
- * 人懐っこいけど、考える人哲学者みたいな雰囲気も！
- * いつまでもフレッシュでいてください！
- * しっかり者で頑張り屋で世界平和に熱いかまってちゃん。かわいい弟。
- * インドネシアのモテチャラ男！副団長お疲れ様でした
- * 言ったことないけど、ゆうきの笑顔けっこう好きです





トラジャ Ex. 02 文化紹介
神戸支部 神戸松蔭女子学院大学 1年

柳瀬梨央

柳瀬 リオカーニバル

ひとこと☺

トラジャ ex02 のメンバー
大好きだー

メンバーより

- * ファンキーガールりおきち
- * ノリよし！センスよし！
- * ちょw おまw
- * 実は経験豊富なりお姐
- * トン・トン・トンコナン★トントントントン・トンコナーン(*´▽`*)
- * ノリよし！つっこみよし！指揮よし！でも アウトーっ。笑
- * しっかりもののリオカーニバル
- * おもろーでセクシーでおっしゃー。* キャラ大好き！
- * ピンクのワンピースがきゃわたん！
- * ピンク着てるイメージ。その姿はまさに踊り子。
- * 忍者スタイル～イスラムスタイル～からのトイレ!!
- * いつも笑顔で元気でテンションハイなイメージ 楽しそう!!
- * おしゃれすぎてインド化
- * リオのカーニバルってことで一番最初に覚えた名前！
- * 「アウトー！」の使い手☆ 若さピカイチ！隊員です。
- * こちら側へようこそ^^ りおとおったらいつまでも笑ってられる
- * 現地人のりおきち。独特な語尾変化とパギパギコールを得意とする
- * アジアン girl☆
- * お可愛
- * あなたの判定はいつも正しい あうとぉー





トラジャ Ex. 02 報告書
神戸支部 関西学院大学 3年

山内菜摘

山内 メタルボイス ちゃん

ひとこと☺
このメンバーでトラジャ行けて
最高じゃー☆

メンバーより

- * おしゃべりおねえちゃん
- * オカリナを吹く女♪
- * ちゃちゃちゃちゃーん!
- * ちゃんさんの笑顔、大好きです ^^
- * 大体こんな感じ→(((o(*°▽°*)o)))
- * ちゃんさんいつも元気で、笑い声聞いたら私も元気になりました!
- * いつでもどこでもおしゃべりるんるん★動物園メンバー! 笑
- * ちゃんたすw
- * 空港にてイケメンマレーシア人を彼氏として Get★ハネムーン行くんだって?
- * 若い。うん。どうしてそんなにも素敵な笑顔ができるのだろう
- * ひまわりっぽい
- * 食事の幸せそうな顔が忘れられません、でも騒ぎの中心点②
- * ちゃんさんのいるところに子供あり
- * いつも笑顔で笑い方が印象的! 元気はつらつです^^
- * ひまわり
- * 独特で愛しい笑い声。飛び込みたくなるハグ力。芯がしっかりした女性。
- * ザ☆笑い声。トラジャでもその笑顔と笑い声は健在でした。センター2。
- * ちゃんさんの笑顔はいつも素敵です(*´ω`*)
- * 笑顔いっぱいパワフル女子! 周りは子どもと笑顔に溢れてる☆ハーモニカ Good job♪
- * ちゃんさんといえばあの笑い声。あの笑い声といえばちゃんさん。





トラジャ Ex. 02 広報
大阪支部 関西大学 3年

山本彩代

山本 ダーティ 彩代

ひとこと😊
このメンバーでトラジャ行けて
本当によかった！心置きなくは
しゃげて幸せでした★

メンバーより

- * さよーんさん
- * 魔女の宅急便のキキ♡
- * はっちゃん☆
- * ダーティー
- * インドネシア人だけど何かの手違いで日本人メンバーに入れられちゃった。
てへぺろー♡
- * トラジャメンバー随一の元気娘。インドネシア人のいところに似てるって！
- * よくぞ気を回してくれた！ トンコナーン♪
- * それはそれは元気な方で、元気のオーラがにじみでていました
- * 笛が似合う リド君のいところw
- * 恋する乙女なおしゃべり娘。インドネシア顔なのか…！？
- * キチガイ変態ダーティーさよ、騒ぎの中心点③
- * 元気やったよな。けど最後疲れ果てて寝てて、ああやっぱ歳上やなと再認識
した笑
- * いつも元気を頂いていました★パワフルさが圧巻です^^
- * トンコナンダンスが頭を占領しています。
- * トンコナンソングが頭から離れん www
- * てめーアゴアゴうるさいねんw
- * ただの現地民。
- * さよ姉さん、謎のトンコナンフームを巻き起こす
- * インドネシア美人。明るい！元気！変顔強烈！笑
- * 寝起き（´・ω・`）





トラジャ Ex. 02 文化紹介
神戸支部 神戸大学 1年

吉澤賢

吉澤 トコナン 賢

ひとこと☺
十年後の八月、また会えることを
信じてます。

ズンパーより

- * よく食べ、よく遊び、よく寝る！
- * 食いしん坊万歳
- * みんなの胃袋けん
- * 寝顔
- * 寝袋今度貸して～(笑) けんの寝顔最強(´q´)w
- * 子どもめっちゃ追いかけてた！額にきらめく懐中電灯。
- * マイペースで感受性豊かな次世代のホープ。よく食べ、よく寝て、よく育て笑
- * つかめへんわーwたまにかましてくるよなーw
- * ごはんもぐもぐ。子どもときゃーきゃー。ヘッドライトがトレードマーク☆
- * 子供の前では変態
- * めっちゃモリモリ食べてた！子供たちに好かれてた♪
- * とどまることを知らぬ食欲。
- * 名探偵けん。好奇心旺盛なタウタウ♡
- * 良く食うよねー 何キロ肥えたん？
- * くいしんぼう將軍で一日に出した回数はギネスに載るとか載らないとか
- * けんに結婚してもらえる系女子になるね
- * 胃∞ お腹を大切に
- * 隠れ自由人
- * 「さぼっているのではない。ただ、机に座り座禅を組み、皆を見守っているのみである。ちなみに、我が得意技は変顔なり。(トヤァ」
- * 大食漢。さすが登山部といわんばかりの、ヘッドライト常備。



続きまして…。トラジャ Ex. 02の

主要登場人物(お世話になった方々)紹介



Kampung Expeditions ガイドさん

マルセルさん (右)

バルバラさん (左)

ステキ笑顔のお二人に何から何までお世話になりました！！この二人なしにトラジャ Ex. 02 は語れません！

バスの運転手さん (→)

この運転手さんスゴ腕です。
彼の運転ならどんな道でもへっちゃらだぜ！



(←) **村長さん**

威厳たっぷりサダン村の村長さん。でも本人に聞いたら、「私は村長じゃない」って言ってたw
本当のことはわかんないけど、私たちみんなの村長さんなのです^^

村長 Jr. (→)

かわいくてやんちゃな将来の村長！みんなのアイドル♡



(←) **ママ Erni**

ステキ元気なサダン村のママです♡



ハサヌディン大学のみんな

大学や町を案内してもらって、マカッサルを満喫することができました！
みんないい子ばかり！大好きです♡



特に企画を中心に考えてくれた…



(左から)



モニカ ニニちゃん リド

まだまだ紹介しきれないくらいたくさんの方にお世話になりました。
このトラジャ Ex.に関わって下さったすべての方に感謝します。

本当にありがとうございました！ Terima Kasih

ランキング

トラジャ Ex. メンバーランキング作っちゃいました！お待ちかねの結果発表です＼(^0^)/

*参加者 21 人で投票しました。ふたり投票されていたり、空白の場合もあったので必ず 21 票あるわけではないです。

大食いけん！

よく食べてた人

- 1 位：けん (13 票)
- 2 位：ゆーき (8 票)
- 3 位：たいき (2 票)
- 4 位：ありさ・しもごん・ちゃん・ぶった・かほ (1 票)



よく寝る人

- 1 位：ゆきりん (14 票)
- 2 位：けん (2 票)
- 3 位：たっちゃん・かほ・さよ・しゅーた (2 票)



リドのいところです♥

みんなの眠り姫なのです。

チーム Z00 その①

おしゃべり

- 1 位：めぐ (7 票)
- 2 位：さよ (4 票)
- 3 位：ちゃん (3 票)
- 4 位：さき・ゆーき・きむたつ・りお・しゅーた・さっぽ・チーム Z00 (1 票)



まるでインドネシア人！

- 1 位：さよ (8 票)
- 2 位：けん・てっさん (5 票)
- 3 位：しゅーた・りお・ちゃん (1 票)



チーム Z00 その②

チーム Z00 が上位を独占！

おそろべし！w

たくましい人

- 1 位：てっさん (9 票)
- 2 位：ゆきりん・ちゃん (2 票)
- 3 位：りさ・りよ・りお・かじゆき・ありさ・さよ・さっぽ (1 票)



やっぱりゴーリキーは
一味違うぜ！w

いやはや圧巻ですな。

みんなのぱぱ！

おとうさん

1位: てっさん (21 票)

☆満場一致!!!☆



みんな大好きお姉ちゃん♡

おねえちゃん

1位: りよよん (6 票)

2位: かじゆき (5 票)

3位: めぐ (3 票)

4位: ちゃん・さっぼ・えり (2 票)

5位: かおる・さよ (1 票)



おかんさっぼ。



トラジャファミリー♡



おかあさん

1位: さっぼ (17 票)

2位: かじゆき・さき・かおる・

バルバラさん (1 票)



安定の兄上様w

おにいちゃん

1位: たいき (12 票)

2位: ぶった (4 票)

3位: てつや・たつや (2 票)

4位: けん

1回生と並んだー！

おとうと

1位: ゆーき・けん (6 票)

2位: しゅーた (3 票)

3位: ぶった・きむたつ (2 票)

4位: 村長ジュニア (1 票)



俺らも負けてないぜ！

ペット

1位: かほ (11 票)

2位: りさ (4 票)

3位: めぐ (3 票)

4位: たっちゃん・しもごん・

かじゆき (1 票)



かわいいペットですにゃん

安定のペットふたりw



かわいい妹いっぱい♡

名人紹介！

買い物名人

- 1位：りよよん（7票）
- 2位：さき・マルセルさん（3票）
- 3位：さっぽ（2票）
- 4位：さよ・かおる・りさ・けん・りお（2票）

値切り上手な団長！
そしてマルセルさんも！w



ダンス名人

- 1位：しゅーた（10票）
- 2位：しもごん・めぐ（4票）
- 3位：りよよん（3票）

名人はキレが違うわ＞＜



ステキな歌をありがとう！



料理名人

- 1位：かおる（6票）
- 2位：さっぽ・たいき（4票）
- 3位：かじゆき（3票）
- 4位：ありさ・てっさん（1票）



クッキング♪カレーに
うるさい大貴もランクインw

歌名人

- 1位：きむたつ（5票）
- 2位：りよよん・りお・ちゃん（3票）
- 3位：けん・てっさん（2票）
- 4位：さよ（1票）

めっちゃコーヒー飲んだ人

- 1位：たいき（8票）
- 2位：かほ（3票）
- 3位：かじゆき・けん・ゆきりん・きむたつ・バルバラさん・村長（1票）



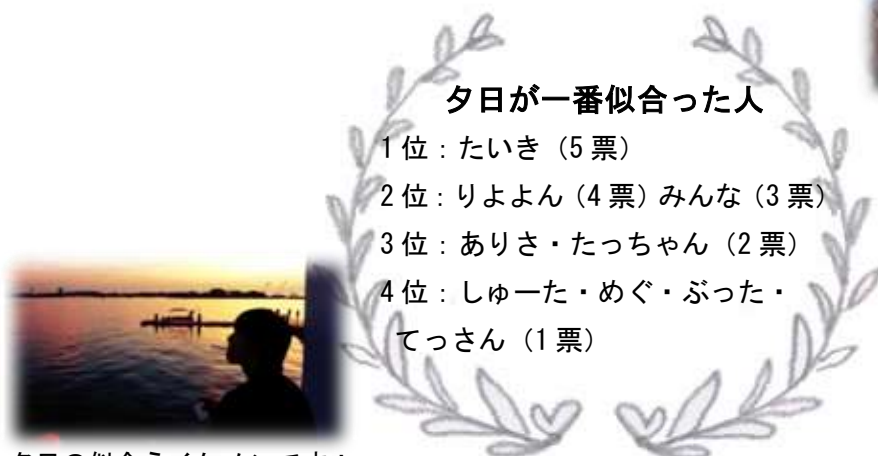
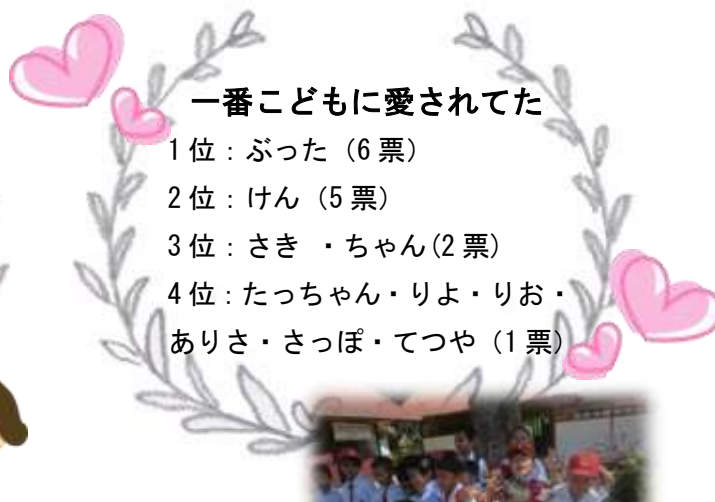
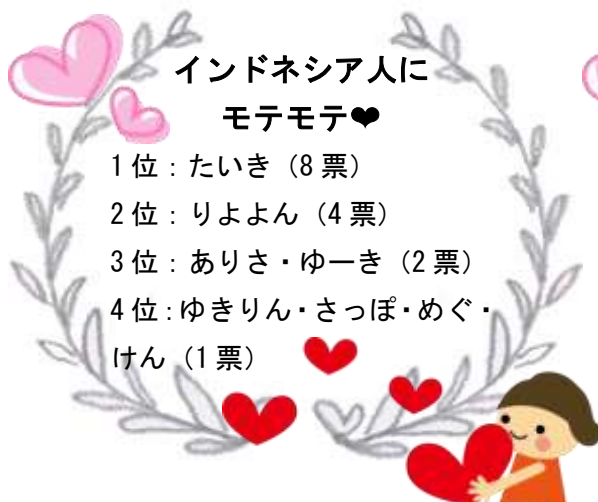
朝コーヒー似合う
大人たち★

ポイズンさんお似合いっす！

サロン似合う人

- 1位：しゅーた（6票）
- 2位：ゆきりん・てっさん（3票）
- 3位：ちゃん・りお（2票）
- 4位：しもごん・さよ・めぐ・りさ・りよ（1票）





夕日の似合うイケメンです！





勝手に番外編ランキング！

(メンバーがその他勝手に作っちゃったランキング募集結果☆)

- ◆笛吹名人：さよ
- ◇忍者サロン：しゅーた
- ◆トラジャTシャツ似合う人：りお
- ◇トラジャでもおしゃれ：ゆきりん
- ◆ギャップ萌：パンツ隊長★(さっぼ)
- ◇自由人：しゅーた&さき
- ◆トンコナンな人：めぐ
- ◇パワフル系女子：ちゃん
- ◆よくキレてる人：どりにゃん♡(きむたつ)
- ◇アングリーバードそっくりさん：どりにゃん♡(きむたつ)
- ◆アイドル：しゅーた
- ◇歩くスピーカー：たつや
- ◆甘えん坊：ゆうき
- ◇拳手がおもしろい人：ぶっだ
- ◆おねむさん：ゆきゆきゆきゆき
- ◇体力やべえ：(常こどもと遊んでた) けん
- ◆外国人観光客と仲良くなる率 N01：たいき
- ◇パンツ隊長：さきほ
- ◆変顔名人！(でもかわいい)：ありさ



ランキング総評

なかなか集計が楽しいランキングでした^^

みんな、納得の結果って感じでしょうか？いや、違うって人もいるかな？？w

メンバー全員なにかしらランキングに名前があると思います☆

そう考えるとほんま個性豊かなメンバーだったんだなあって再確認！！上位ランクイン率が高かったのはたいきかな？さすがイケメンさんwあと、ちょいちょいマイセルさんとかバルバラさんが出てきたのが楽しかったです♪まあでもこのランキングを見れば、トラジャメンバーの良さが再確認できるってやつですね♡うふふ。

インドネシア・トラジャ EX 持ち物リスト

必ず必要なもの

☐ お金

* 参加費 545米ドル(これから変わる可能性あり。)

* ビザ代 25米ドル

【超注意!】 ★参加費、ビザ代ともに、おつりが出ないように持ってきてください。

* ポケットマネー

☐ パスポート

☐ パスポートのコピー

★インドネシアでは、外国人はパスポートかそのコピーを常時携帯していなければならないという決まりがあります!

☐ トラジャTシャツ

☐ 長袖の服

★トラジャの夜は非常に冷える!

☐ ズボン

★女性は短くてもひざ上。露出が~~多~~ないように。ロングスカートはOK!

☐ 下着

★多めに!

☐ ノート

☐ 筆記用具

☐ サンダルORクロックス

☐ タオル

☐ 洗面用具

* シャンプー

* リンス

* ボディーソープ

* 洗顔料

* 歯磨きセット

☐ 虫対策用品

* かゆみどめ

* 虫除けスプレー **絶対!!蚊に刺されることにより、デング熱にかかることも少なくないそう!!**

★去年100箇所以上かまれた人もいるらしいです!!

☐ ホテル予約(ビフォア・アフター)のバウチャーを印刷したもの

☐eチケット を印刷したもの

☐携帯電話

☐携帯電話充電器

☐電気プラグ(インドネシアは電圧 220V、周波数 50Hz、丸ピン 2 本足の C タイプ)

☐黒の上下服★お葬式参列用

☐指差し会話帳コピー

☐移動用バッグ

☐懐中電灯

★トラジャの夜は暗い。トイレが寝るところから離れているのではないと危険

☐腹痛止め

☐ホームステイ先へのお土産

☐フェアウェルパーティー用 日本のお菓子 1 つ

☐トイレットペーパーOR テッシュペーパーとスーパーの袋

★向こう(特にタナトラジャのホームステイ先)では、ティッシュペーパーはなく、みんなトイレを済ましたあとは、水と手でおしりを洗い、そのまま拭かずにパンツをはくそう。抵抗を感じる方は、必ず、ペーパーと袋を持っていくようにしましょう。

持っていった方がいいもの

☐日焼け止め

☐汗拭きシート類

☐帽子

★日中のインドネシアは暑い！

☐時計

☐カメラ

☐カメラ充電器

☐コンタクト・洗浄液(コンタクト使用者)

☐生理用品(女子)

☐絆創膏

☐風邪薬

☐酔い止め

★マカッサルからタナトラジャまでの道のりは、ヤヴァイです！車酔いを少しでも経験したことがある人は持ってきてください。

☐ファブリーズ

☐水着

★川でお風呂になる可能性があるそうなので、女の子は特に。

□手ピカジェル OR 消毒液

□カイロ

★おなかを壊した時に大活躍するそうです。

□靴下

★ホテルやトンコナンは、石の床が多く、夜から朝にかけて非常に冷えやすいそうです。
腹痛の原因にもなりかねないので、靴下を持っていくことをオススメします。



これ教えて！！Q&Aコーナー

これからトラジャ参加したいと思う人が持つであろう疑問に私たち O2 がお答えしよう！

Q1. お金全部でどれくらいかかるの？

参加費 480 米ドル、ビザ代 25 米ドル(往路のみ)、マカッサルまでの飛行機往復(最短ルート：関空～クアラルンプール～マカッサル)6,7 万円(取るのが早ければ早いほど安くなるよ！！)、インドネシアお小遣い最低 1 万円(お土産最小限しか買えないのでいっぱい買う人は 2 万円は欲しいかも)、その他経由地での飲食宿泊代(クアラルンプールは 2000 円もせずに泊まれるところあります！ご飯も安い！)

⇒つまり、12 万円ほどあったら O2 は行けたのね ^^

Q2. ビフォーアフターどこに行った？

バリ島、ボロブドゥール、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ボルネオ島・・・！！

意外にバリ島へ行った人は 2 人だけ。みんなたくさんの国行きますねえw

クアラルンプール(マレーシア)のビフォーはみんなでの前入りにもなるし、プログラムのにもおススメ☆

Q3. 服装、気温

昼間は日本の夏と同じ！女性も宗教的な(ムスリムの)肌の露出はそんなに気にしなくても大丈夫 ^^ 夜のトンコナンは毛布で寝ても寒いです。自分用に買ったサロンが大活躍！

お葬式は上下黒いもので揃えましょう。その他は洗濯しやすい服であればいいかな。洗濯も頻繁にできるわけではないので下着などできるだけ日数分は持ってきたら安心です。

クロックス・日焼け止め・サングラスなど大活躍！

Q4. バックパック？スーツケース？

どっちも OK！インドネシアでは大荷物はずっと拠点となる所に置いていたので基本動かしません。だから好みで大丈夫かなと思います。人数比的には半々くらいやったかな。スーツケースは 1~2 週間以上用を持ってきてましたね。バックパックは 40L~72L 容量まで、色んな人がいました＊

Q5. 持ちもの (いらんもの)

非常食はいらない。でも、日本のものは結局インドネシアの方への手土産にできるので無駄にはならなかったですね。

Q6. 洗濯

早起して or1 日スケジュール後夕方村に帰ってきたらのタイミングなので、時間はありましたが、早起できるか・自由時間を洗濯に割くのかは考えどころですねw
ホテルではハンガー物干しを持ってくと重宝してました。村では干す場所貸してくれるので、困りません。洗濯用洗剤持ってきてましょー

Q7. 服買える？現地で手に入るものは？

服は基本買えないと思った方がいいですね。マカッサルでショッピングモールに行く予定があるなら可能。サダン村はほぼサロンしか売ってないし、観光地でもお土産用の t シャツ・ワンピースしか買えませんね。ゴビ市場ではちょっと売ってたけど、気に入ったものが見つかる保証はないので、やっぱり自分で持ってくることをお勧めしますw

Q8. コンセント(プラグ)は？

C を選びましょー ^^ 日本の使えないよ〜ww 電気屋のおっちゃんに騙されて B 買っちゃったら使えませんでしたw 変圧器は、日本の家電は賢いので基本大丈夫です！

Q9. おみや

サロン！！もう must！！これであなたも現地人☆サダン村では 5 万 Rp〜10 万 Rp が主流。マカッサルでは 2 万 Rp という破格のものが！トラジャコーヒーは市場でも売ってませんが、本物は買うなら Kyecoffee！
ちなみに、サダン村や市場ではあまり買えません。お墓などの観光地のお土産屋さんで買いましょー！種類も豊富やし、値段もそこまで変わりません。

Q10. 常備薬

風邪薬、酔い止め、喉スプレーは日本では元気な人でも持ってった方がよいw空調で喉やられる人多数><朝晩・日中の温度差があるので体調には気をつけてください！
冷えピタもイイネ☆各自けがしても大丈夫なようにマキロンやバンドエイドもあると安心。

Q11. インドネシア語通じる？何で会話した？

インドネシア語が使えりゃそらもう安心ですがw ハサヌディン大学日本語学科の学生さんは日本語が堪能です。普通の会話でそんなに困ることはありません ^^ サダン村では英語もちょびっと通じる人がいます。後は、ちょっとの英語とボディランゲージでコミュニケーションとってました ^^

Q12. お昼寝タイム、ほんまにみんな寝てるの？

なかったwみんなお昼も元気w

Q13. 飛行機情報、おすすめサイト

エキスペディアで調べたよ。Air Asia など格安航空が定番！

Q14. 現地の雰囲気、お墓とかもろもろ

雰囲気かー。なにより人があったかい。お墓はちょっとテーマパークのように感じた。お葬式がやっぱり文化の違いを一身に感じたところですね。

Q15. 文化紹介何がうけいいのか？日本の何知ってるの？

大学生へのヘビーローテーション(AKB48)は大成功！JKT(ジャカルタ)48 の威力ですね
～ サダン村の人は五輪真弓「心の友」を知っていました。ノリがいいもの、感動系のもの、場面によって対応できるように引き出しは持っていたいですね＊

Q16. 何をしたら仲良くなれた？

小さい子供とはわいわいはしゃぐ元気があれば OK！シャボン玉と折り紙は大戦争になりました(@小学校) 村の子どもたちはビーチボールが気に入ってたね☆
大人や中学生以上のちょっと難くなるお年頃の子とは、がんばって話そうとする心意気と紙とペンとかちょっとした会話の助けになるツールがあると安心。

Q17. 両替どうした？どこがおすすめ？

マカッサルの街中で、ガイドさんに連れてってもらってみんなで行ったよ。空港よりココがおススメ！

Q18. 予防接種ほんまにいる？

私はしなかった(時期的に間に合わなかった手もありますが)w

Q19. お風呂、トイレしゃべるいる？石でほれる

シャベルいらない。掘らない。トイレトペーパー持ってけば OK☆
お風呂は川の場合もあるので水着を持っていきましょう ^ ^

Q20. 飛行機持ち込み事情

結構ゆるい手荷物検査ではありますが、いちお液体類刃物の持ち込みは気をつけましょう

Q21. ぼったくり対策

とりあえず 1/3 の値段以下から値段交渉！！！目指せ半額！強気でいきましょうw

有志ページ

参加メンバーに有志ページを募ったところ、なんと2人が作ってくれました☆
ありがとうございます(●^▽^●)

1. TETSUYA EGUCHI

アフターどうでしょう？！

2. YUKIKO KAJIYAMA

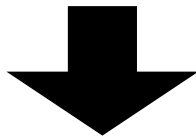
ゆきこプロによる写真集



アフターどうでしょう?! ~ジョグジャカルタへの誘い~

☆ジョグジャを知る3つのキーワード☆

1. 宗教遺跡
2. 芸術
3. 人



ジョグジャカルタはジャワ島のほぼ中心に位置する、かつてのインドネシアの首都である。トラジャ Ex.解散のマカッサルからは、乗り継ぎを含め約4~5時間ほどの距離である。

1. 宗教遺跡

ジョグジャカルタには宗教にちなんだ大きな遺跡が2つ存在する。1つが仏教のボロブドゥール、もう1つがヒンドゥー教のプランバナンである。それぞれについての詳細は長くなるので割愛するが、どちらも凄まじいサイズ感を誇っており、実際に眼前に迫ってみると圧倒されっぱなしであった。いかにこれら宗教が絶大な力を持っていたのかを実感するには十分なものであった。写真は、上がボロブドゥール、下がプランバナンである。
・・・あ、ボロブドゥールのすぐ横のマノハラホテル(約3000円)は近いしキレイだし雰囲気あるしで超オススメです(-^O^-)



2. 芸術

バティックと呼ばれる柄の染物やラーマヤナ舞踊、影絵が有名。その中でも印象に残るのはバティック。衣服に使われるのが一般的だが絵として作ることを試みる大学があるようで、作品が飾られているギャラリーを訪れた。非常に緻密な部分まで描かれており、まるで筆で描いたように美しい作品たちであった。



3. 人

ジョグジャカルタの人は穏やかで心優しい人が多かったように思う。皆が皆そうだとは思わないが、私たちが偶然出会ったタクシードライバーは1日中つきっきりで、仕事の枠を超えて私たちの世話をしてくれたように感じた。このような人の温もりを感じることができるのも、この街の穏やかさが成す業なのかもしれない。



Indonesia Toraja Ex. 02 PHOTO GALLERY



What did this trip give us...?



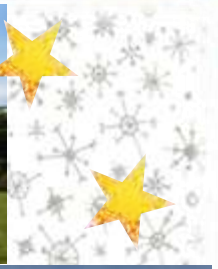
Friendship

Memories



Experience





What is yours?



—Find your own.

編集後記

インドネシア・トラジャ Ex. 02、なっがい名前。そんな名前に負けないくらいの充実プログラムだったのではないのでしょうか。「作る Ex.」、私がこの Ex. に参加しようと思った理由です。今の自分の MAX を注ぎ込み、皆の力をブレンドし、2012 年 9 月に一緒に味わいました。トラジャで飲んだコーヒーは、コーヒー派ではない私にもほろ苦くおいしく感じました。それは、あのトラジャという場所とこのメンバーによって作られた雰囲気のおかげかもしれません。

01 から 02 へこのプログラムは確実に成長しました。このプログラムの中で私自身も文化の違いや世界と人、様々なことを考えました。他の Ex. とは違う観光・交流要素に加え、プログラムとともに成長できるのがインドネシア・トラジャ Ex. です。それがこの報告書で少しでも伝われば報告書係として本望です。

02 に携わったみなさま、お疲れ様！ありがとうございます^^これからもこの Ex. を見守りましょう。たまには首を突っ込みましょう。03 そしてそれ以降、どんどん進化し続けるプログラムであることを願い、後輩に託します。

インドネシア・トラジャ Ex. 02 報告書係
神戸支部 3 回生 山内菜摘

トラジャ Ex. 02 の報告書を読んで下さった皆さん、読んで頂いてありがとうございます。あまりにも参加メンバーの想いが強くて、予想以上に長編大作になってしまいました。でもそれだけ、このプログラムは私たちひとりひとりに何かを感じ考えさせてくれるものだったのです。内容をみんなで考え提案するところから始まり、そして実際に行ってみて、自分の目で、肌で感じたこと。そんなリアルな想い、そしてトラジャ Ex. の魅力をこの報告書を通して読んで下さった少しでも伝えることが出来ていれば嬉しく思います。

そして 02 参加者の私たちの想いはひとつ。「これからもこの素晴らしいインドネシアトラジャ Ex. が続いて行ってほしい」、ということ。この報告書を読んで感じたことをどうか次へと生かして行ってほしいと思います。I. S. A. のプログラムは、参加者の想いを繋いでいくことで、さらに良いものに出来るということをこのトラジャ Ex. が改めて教えてくれたような気がします。ありがとうトラジャ Ex.

さあ！想いよ繋がれ 03 へ！！！！

インドネシア・トラジャ Ex. 02 報告書係
神戸支部 4 回生 松尾咲穂

Indonesia Toraja Ex. 02 報告書

編集責任：松尾咲穂、山内菜摘

発行責任：山本梨世

発行元：日本国際学生協会
